

862.2492

PATENT APPLICATION

IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE



In re Application of:)
HIDEAKI OHSHIMA ET AL.)
Application No.: 09/176,274)
Filed: October 21, 1998)
For: IMAGE PROCESSING)
APPARATUS AND METHOD,)
AND COMPUTER-READABLE)
MEMORY : January 4, 1999

Assistant Commissioner for Patents
Washington, D.C. 20231

RECEIVED
JAN 06 1999
Group 2700

CLAIM TO PRIORITY

Sir:

Applicants hereby claim priority under the International Convention and all rights to which they are entitled under 35 U.S.C. § 119 based upon the following Japanese Priority Applications:

9-291353 filed October 23, 1997

9-291354 filed October 23, 1997.

Certified copies of the priority documents together with an English translation of the first page of the same are enclosed.

Applicants' undersigned attorney may be reached in our New York office by telephone at (212) 218-2100. All correspondence should be directed to our new address given below.

Respectfully submitted,



Attorney for Applicants

Registration No. 38,544

FITZPATRICK, CELLA, HARPER & SCINTO
30 Rockefeller Plaza
New York, New York 10112-3801
Facsimile: (212) 218-2200

F507\A628447

RECEIVED

JAN 06 1999

Group 2700

(Translation of the front page
of the priority document of
Japanese Patent Application
No. 9-291353)



PATENT OFFICE
JAPANESE GOVERNMENT

This is to certify that the annexed is a true copy of
the following application as filed with this Office.

Date of Application : October 23, 1997

Application Number : Patent Application
9-291353

Applicant(s) : Canon Kabushiki Kaisha

RECEIVED
JAN 06 1999
Group 2700

November 13, 1998

Commissioner,
Patent Office

Takeshi ISAYAMA

Certification Number 10-3091579

日本国特許庁
PATENT OFFICE
JAPANESE GOVERNMENT

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出願年月日
Date of Application:

1997年10月23日

出願番号
Application Number:

平成 9年特許願第291353号

出願人
Applicant(s):

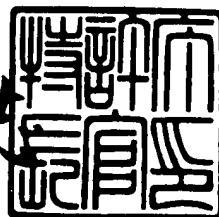
キヤノン株式会社

CERTIFIED COPY OF
PRIORITY DOCUMENT

1998年11月13日

特許庁長官
Commissioner,
Patent Office

伴佐山 建志



出証番号 出証特平10-3091579

【書類名】 特許願
【整理番号】 3617064
【提出日】 平成 9年10月23日
【あて先】 特許庁長官殿
【国際特許分類】 G06G 15/00
H05L 9/00
【発明の名称】 画像処理装置及び方法
【請求項の数】 30
【発明者】
【住所又は居所】 神奈川県川崎市中原区今井上町53番地 キヤノン株式
会社小杉事業所内
【氏名】 大島 秀明
【発明者】
【住所又は居所】 神奈川県川崎市中原区今井上町53番地 キヤノン株式
会社小杉事業所内
【氏名】 羽鳥 和重
【特許出願人】
【識別番号】 000001007
【氏名又は名称】 キヤノン株式会社
【代理人】
【識別番号】 100076428
【弁理士】
【氏名又は名称】 大塚 康徳
【電話番号】 03-5276-3241
【選任した代理人】
【識別番号】 100093908
【弁理士】
【氏名又は名称】 松本 研一
【電話番号】 03-5276-3241

【選任した代理人】

【識別番号】 100101306

【弁理士】

【氏名又は名称】 丸山 幸雄

【電話番号】 03-5276-3241

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 003458

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9704672

【ブルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 画像処理装置及び方法

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 出力情報の変倍処理が可能な画像処理装置であって、第1の大きさでの出力画像及び前記第1の大きさでの出力画像の出力位置を保持するとともに、第2の大きさでの出力画像及び前記第2の大きさでの出力位置を保持する保持手段と、

前記保持手段に保持された出力画像のうちより所望の情報を選択するとともに、選択情報の出力すべき大きさを指定する選択手段と、

前記選択手段で選択された画像の前記保持手段に保持された第1及び第2の大きさ間の出力画像の変化割合より出力倍率に対応した出力画像を生成する画像生成手段と、

前記選択手段で選択された画像の前記保持手段に保持された第1及び第2の大きさ間の出力画像位置の変化割合より出力倍率に対応した出力画像描画位置を決定する画像生成位置決定手段と、

前記画像生成手段で生成した出力画像を前記画像生成位置決定手段での決定位置に描画する画像描画手段とを備えることを特徴とする画像処理装置。

【請求項 2】 出力すべき画像の選択は前記保持手段に保持された前記第1の大きさの画像より選択することを特徴とする請求項1記載の画像処理装置。

【請求項 3】 前記描画手段は表示装置の表示画面上に出力画像を描画することを特徴とする請求項1又は請求項2のいずれかに記載の画像処理装置。

【請求項 4】 更に、前記描画手段での描画情報を1ページ単位に永久可視表示する出力装置に出力する出力手段を備えることを特徴とする請求項3記載の画像処理装置。

【請求項 5】 前記描画手段は印刷装置への印刷情報として出力画像を描画することを特徴とする請求項1又は請求項2のいずれかに記載の画像処理装置。

【請求項 6】 前記描画手段による描画出力画像は画像情報のフレーム情報であり、前記フレーム情報中にはめ込むはめ込み情報を指定する指定手段と、

前記指定手段の指定はめ込み情報を前記フレーム情報のフレーム中にはめ込む

はめ込み手段とを備えることを特徴とする請求項1乃至請求項5のいずれかに記載の画像処理装置。

【請求項7】 前記はめ込み手段によるはめ込み後に前記選択手段によるフレーム情報の描画倍率を変更可能とし、はめ込み後に前記フレーム情報の描画倍率を変更した場合には、前記画像生成位置決定手段による描画位置の移動に応じて前記はめ込み情報のはめ込み位置を変更し、前記フレーム情報とのはめ込み位置関係を保持することを特徴とする請求項6記載の画像処理装置。

【請求項8】 前記はめ込み手段は、前記指定手段による指定はめ込み情報が画像情報である場合には、前記選択手段による出力すべきフレーム情報の大きさの変化にかかわらずはめ込み情報の変更は行なわず、はめ込み情報中の前記フレーム情報のフレーム内に相当する画像のみをフレーム内にはめ込み情報として描画することを特徴とする請求項7記載の画像処理装置。

【請求項9】 前記はめ込み手段は、前記指定手段による指定はめ込み情報が文字情報である場合には、前記選択手段による出力すべきフレーム情報で示されるフレーム内に全ての文字情報を表示させることを特徴とする請求項7又は請求項8のいずれかに記載の画像処理装置。

【請求項10】 前記はめ込み手段は、文字情報の前記選択手段による選択時の文字の大きさでは1行の情報が前記フレームよりはみ出す場合には、前記フレーム内に納まるように自動改行してはめ込むことを特徴とする請求項9記載の画像処理装置。

【請求項11】 前記選択手段による選択出力画像に対する前記画像生成位置決定手段による描画位置の移動により描画位置が输出装置の出力可能範囲外とならないように、出力可能範囲の縁部近傍では、第1及び第2の大きさ間の出力画像位置の変化割合に対応した出力画像描画位置の移動量を圧縮することを特徴とする請求項1乃至請求項10のいずれかに記載の画像処理装置。

【請求項12】 文字や図形を処理する文書処理手段あるいは画像を処理する画像処理手段で生成されたオブジェクトの集合体を描画処理する画像処理装置であって、

前記オブジェクトの集合体は、一つ以上のオブジェクトで構成されており、各

オブジェクトのそれぞれは当該オブジェクトにサイズ変更を加えた場合の展開方法に関する個別に設定できる描画処理のための属性を備え、

前記オブジェクトの集合体を構成するオブジェクトを編集する編集手段と、

前記オブジェクト毎の属性をもとに描画を行うオブジェクト描画手段と、

前記オブジェクト集合体のサイズを変更するサイズ変更手段と、

前記サイズ変更手段によるサイズの変更に対応して前記オブジェクト集合体の新たなサイズ情報を発生する発生手段と、

前記発生手段の発生するサイズ情報に従って前記オブジェクト集合体を構成する個々のオブジェクトの持つ描画属性をもとに各オブジェクトにおいて新たな描画属性を決定する決定手段とを備え、

前記オブジェクト描画手段は、更に決定手段により決定されたオブジェクトの持つ属性をもとに描画を行うことを特徴とする画像処理装置。

【請求項 1 3】 前記編集手段は、前記オブジェクトの集合体を構成するオブジェクトの編集機能として文字や文字列を編集することが可能であることを特徴とする請求項 1 2 記載の画像処理装置。

【請求項 1 4】 前記編集手段は、前記オブジェクトの集合体を構成するオブジェクトの編集機能として図形を編集することが可能であることを特徴とする請求項 1 2 又は請求項 1 3 のいずれかに記載の画像処理装置。

【請求項 1 5】 第 1 の大きさでの出力画像及び前記第 1 の大きさでの出力画像の出力位置を保持するとともに、第 2 の大きさでの出力画像及び前記第 2 の大きさでの出力位置を保持する保持手段を備え、出力情報の変倍処理が可能な画像処理装置における画像処理方法であって、

前記保持手段に保持された出力画像のうちより所望の情報を選択するとともに、選択情報の出力すべき大きさを指定する選択工程と、

前記選択工程で選択された画像の前記保持手段に保持された第 1 及び第 2 の大きさ間の出力画像の変化割合より出力倍率に対応した出力画像を生成する画像生成工程と、

前記選択工程で選択された画像の前記保持手段に保持された第 1 及び第 2 の大きさ間の出力画像位置の変化割合より出力倍率に対応した出力画像描画位置を決

定する画像生成位置決定工程と、

前記画像生成工程で生成した出力画像を前記画像生成位置決定工程での決定位置に描画する画像描画工程とを備えることを特徴とする画像処理方法。

【請求項 16】 出力すべき画像の選択は前記保持手段に保持された前記第1の大きさの画像より選択することを特徴とする請求項 15 記載の画像処理方法。

【請求項 17】 前記描画工程は表示装置の表示画面上に出力画像を描画することを特徴とする請求項 15 又は請求項 16 のいずれかに記載の画像処理方法。

【請求項 18】 更に、前記描画工程での描画情報を 1 ページ単位に永久可視表示する出力装置に出力する出力工程を備えることを特徴とする請求項 17 記載の画像処理方法。

【請求項 19】 前記描画工程は印刷装置への印刷情報として出力画像を描画することを特徴とする請求項 15 又は請求項 16 のいずれかに記載の画像処理方法。

【請求項 20】 前記描画工程による描画出力画像は画像情報のフレーム情報であり、前記フレーム情報中にはめ込むはめ込み情報を指定する指定工程と、

前記指定工程の指定はめ込み情報を前記フレーム情報のフレーム中にはめ込むはめ込み工程とを含むことを特徴とする請求項 15 至請求項 19 のいずれかに記載の画像処理方法。

【請求項 21】 前記はめ込み工程によるはめ込み後に前記選択工程によるフレーム情報の描画倍率を変更可能とし、はめ込み後に前記フレーム情報の描画倍率を変更した場合には、前記画像生成位置決定工程による描画位置の移動に比例して前記はめ込み情報のはめ込み位置を変更し、前記フレーム情報とのはめ込み位置関係を保持することを特徴とする請求項 20 記載の画像処理方法。

【請求項 22】 前記はめ込み工程は、前記指定工程による指定はめ込み情報が画像情報である場合には、前記選択工程による出力すべきフレーム情報の大きさの変化にかかわらずはめ込み情報の変更は行なわず、はめ込み情報中の前記フレーム情報のフレーム内に相当する画像のみをフレーム内にはめ込み情報とし

て描画することを特徴とする請求項21記載の画像処理方法。

【請求項23】 前記はめ込み工程は、前記指定工程による指定はめ込み情報が文字情報である場合には、前記選択工程による出力すべきフレーム情報で示されるフレーム内に全ての文字情報を表示させることを特徴とする請求項21又は請求項22のいずれかに記載の画像処理方法。

【請求項24】 前記はめ込み工程は、文字情報の前記選択工程による選択時の文字の大きさでは1行の情報が前記フレームよりはみ出す場合には、前記フレーム内に納まるように自動改行してはめ込むことを特徴とする請求項23記載の画像処理方法。

【請求項25】 前記選択工程による選択出力画像に対する前記画像生成位置決定工程による描画位置の移動により描画位置が出力装置の出力可能範囲外とならないように、出力可能範囲の縁部近傍では、第1及び第2の大きさ間の出力画像位置の変化割合に対応した出力画像描画位置の移動量を圧縮することを特徴とする請求項15乃至請求項24のいずれかに記載の画像処理方法。

【請求項26】 文字や図形を処理する文書処理手段あるいは画像を処理する画像処理手段で生成されたオブジェクトの集合体を描画処理する画像処理装置における画像処理方法であって、

前記オブジェクトの集合体は、一つ以上のオブジェクトで構成されており、各オブジェクトのそれぞれは当該オブジェクトにサイズ変更を加えた場合の展開方法に関する個別に設定できる描画処理のための属性を備え、

前記オブジェクトの集合体を構成するオブジェクトを編集する編集工程と、

前記オブジェクト毎の属性をもとに描画を行うオブジェクト描画工程と、

前記オブジェクト集合体のサイズを変更するサイズ変更工程と、

前記サイズ変更工程によるサイズの変更に対応して前記オブジェクト集合体の新たなサイズ情報を発生する発生工程と、

前記発生工程の発生するサイズ情報に従って前記オブジェクト集合体を構成する個々のオブジェクトの持つ描画属性をもとに各オブジェクトにおいて新たな描画属性を決定する決定工程とを備え、

前記オブジェクト描画工程は、更に決定工程により決定されたオブジェクトの

持つ属性をもとに描画を行うことを特徴とする画像処理方法。

【請求項 27】 前記編集工程は、前記オブジェクトの集合体を構成するオブジェクトの編集機能として文字や文字列を編集することが可能であることを特徴とする請求項 26 記載の画像処理方法。

【請求項 28】 前記編集工程は、前記オブジェクトの集合体を構成するオブジェクトの編集機能として図形を編集することが可能であることを特徴とする請求項 26 は請求項 27 のいずれかに記載の画像処理方法。

【請求項 29】 請求項 1 乃至請求項 28 のいずれかに記載の機能を実現する制御手順を記憶することを特徴とする記憶媒体。

【請求項 30】 請求項 1 乃至請求項 28 のいずれかに記載の機能を実現することを特徴とするプログラム制御手順。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】

本発明は出力情報の変倍処理が可能な画像処理装置及び方法に関し、例えば、文字枠や図形や画像を縁取る枠を描画する際、あるいは、グループ化図形を描画する際に、効果的な編集を可能とする画像処理装置及び方法に関するものである。

【0002】

【従来の技術】

文書と共に図形や画像を表示する機能を有する文書作成装置や、画像システムにおいて、文字枠や図形や画像を縁取る枠や、グループ化図形のサイズを変更した場合、サイズ変更後の図形はサイズ変更の割合に応じた比例的な変化をしていた。

【0003】

例えば、倍率が 2 倍になれば枠の幅も 2 倍になり、枠の幅が倍率 1 倍の時に 1 cm であれば、2 倍の時には 2 cm となっていた。

この従来の変倍処理による描画の例を図 17 に示す。例えば、上段の 90 に示す枠を拡大する処理を行うと、例えば図 17 の下段に示すように枠の大きさ、枠

の幅等もそのままの倍率で太くなってしまう。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】

しかし、枠の幅等は中に入る文字や画像の種類やサイズにより適した幅が有り、特に文字の場合など、枠が大きくなつて中に入る文字数が多くなつた場合に、枠の幅も枠の大きさに従つて太くなつては、中の文字とのバランスが崩れてしまうことにもなる。

【0005】

このように、従来においては、文字枠や図形や画像を縁取る枠や、グループ化図形である場合に、サイズを変更した時にサイズ変更に応じた比例的な変化をしていたため、その枠やグループ化図形の持つ本来の意図にそぐわない状態となり、違和感が生じていた。

本発明は上述した課題を解決することを目的としてなされたもので、例えば、文字枠や図形や画像を縁取る枠や、グループ化図形を、オブジェクト集合体として捉え、このオブジェクト集合体のサイズを変更した場合に、その枠やグループ化図形に対して位置付けた意図に沿つた、違和感の無いオブジェクト集合体の描画処理を行う、オブジェクトによって構造化されたオブジェクト集合体を処理する画像処理装置及び方法を提供することを目的とする。

【0006】

【課題を解決するための手段】

上述した課題を解決する一手段として例えば以下の構成を備える。

即ち、出力情報の変倍処理が可能な画像処理装置であつて、第1の大きさでの出力画像及び前記第1の大きさでの出力画像の出力位置を保持するとともに、第2の大きさでの出力画像及び前記第2の大きさでの出力位置を保持する保持手段と、前記保持手段に保持された出力画像のうちより所望の情報を選択するとともに、選択情報の出力すべき大きさを指定する選択手段と、前記選択手段で選択された画像の前記保持手段に保持された第1及び第2の大きさ間の出力画像の変化割合より出力倍率に対応した出力画像を生成する画像生成手段と、前記選択手段で選択された画像の前記保持手段に保持された第1及び第2の大きさ間の出力画

像位置の変化割合より出力倍率に対応した出力画像描画位置を決定する画像生成位置決定手段と、前記画像生成手段で生成した出力画像を前記画像生成位置決定手段での決定位置に描画する画像描画手段とを備えることを特徴とする。

【0007】

そして例えば、出力すべき画像の選択は前記保持手段に保持された前記第1の大きさの画像より選択することを特徴とする。あるいは、前記描画手段は表示装置の表示画面上に出力画像を描画することを特徴とする。

又例えば、更に、前記描画手段での描画情報を1ページ単位に永久可視表示する出力装置に出力する出力手段を備えることを特徴とする。あるいは、前記描画手段は印刷装置への印刷情報として出力画像を描画することを特徴とする。

【0008】

更に例えば、前記描画手段による描画出力画像は画像情報のフレーム情報であり、前記フレーム情報中にはめ込むめ込み情報を指定する指定手段と、前記指定手段の指定はめ込み情報を前記フレーム情報のフレーム中にはめ込むめ込み手段とを備えることを特徴とする。あるいは、前記はめ込み手段によるはめ込み後に前記選択手段によるフレーム情報の描画倍率を変更可能とし、はめ込み後に前記フレーム情報の描画倍率を変更した場合には、前記画像生成位置決定手段による描画位置の移動に比例して前記はめ込み情報のはめ込み位置を変更し、前記フレーム情報とのはめ込み位置関係を保持することを特徴とする。

【0009】

また例えば、前記はめ込み手段は、前記指定手段による指定はめ込み情報が画像情報である場合には、前記選択手段による出力すべきフレーム情報の大きさの変化にかかわらずはめ込み情報の変更は行なわず、はめ込み情報中の前記フレーム情報のフレーム内に相当する画像のみをフレーム内にはめ込み情報として描画することを特徴とする。あるいは前記はめ込み手段は、前記指定手段による指定はめ込み情報が文字情報である場合には、前記選択手段による出力すべきフレーム情報で示されるフレーム内に全ての文字情報を表示させることを特徴とする。

【0010】

更に例えば、前記はめ込み手段は、文字情報の前記選択手段による選択時の文

字の大きさでは1行の情報が前記フレームよりはみ出す場合には、前記フレーム内に納まるように自動改行してはめ込むことを特徴とする。

あるいは又例えば、前記選択手段による選択出力画像に対する前記画像生成位置決定手段による描画位置の移動により描画位置が输出装置の出力可能範囲外とならないように、出力可能範囲の縁部近傍では、第1及び第2の大きさ間の出力画像位置の変化割合に対応した出力画像描画位置の移動量を圧縮することを特徴とする。

【0011】

または、文字や図形を処理する文書処理手段あるいは画像を処理する画像処理手段で生成されたオブジェクトの集合体を描画処理する画像処理装置であって、前記オブジェクトの集合体は、一つ以上のオブジェクトで構成されており、各オブジェクトのそれぞれは当該オブジェクトにサイズ変更を加えた場合の展開方法に関する個別に設定できる描画処理のための属性を備え、前記オブジェクトの集合体を構成するオブジェクトを編集する編集手段と、前記オブジェクト毎の属性をもとに描画を行うオブジェクト描画手段と、前記オブジェクト集合体のサイズを変更するサイズ変更手段と、前記サイズ変更手段によるサイズの変更に対応して前記オブジェクト集合体の新たなサイズ情報を発生する発生手段と、前記発生手段の発生するサイズ情報に従って前記オブジェクト集合体を構成する個々のオブジェクトの持つ描画属性をもとに各オブジェクトにおいて新たな描画属性を決定する決定手段とを備え、前記オブジェクト描画手段は、更に決定手段により決定されたオブジェクトの持つ属性をもとに描画を行うことを特徴とする。

【0012】

そして例えば、前記編集手段は、前記オブジェクトの集合体を構成するオブジェクトの編集機能として文字や文字列を編集することが可能であることを特徴とする。あるいは、前記編集手段は、前記オブジェクトの集合体を構成するオブジェクトの編集機能として図形を編集することが可能であることを特徴とする。

【0013】

【発明の実施の形態例】

以下、本発明に係る一発明の実施の形態例を図面を参照して詳細に説明する。

以下の説明は、本実施の形態例をオブジェクトによって構造化されたオブジェクトの集合体の描画処理システムに適用した例を説明する。

(第1の実施の形態例)

図1は本発明に係る一発明の実施の形態例を示す全体の概略ブロック図である。図1において、11は文字や枠サイズなどを入力するキーボードやマウス等の入力装置であり、他に画像情報などを入力するため画像入力部を備えていてもよい。この画像入力部としては、画像情報を記憶した磁気ディスクを読み取り可能なディスク装置や、原稿画像を読み取る読み取り装置等、任意の入力装置とすることができる。又、通信媒体を介して他の情報処理装置より処理画像や処理文書情報を受け取るものであっても良い。

【0014】

12はオブジェクトの集合体を描画処理する文書作成装置や画像システムにおける編集処理装置（中央演算処理装置）、13はディスプレイ等の表示装置、14はプリンタ等の印刷処理装置、15はオブジェクトデータ等を格納するデータ記憶装置である。

以上の構成において、編集処理装置12は、入力装置11より入力した画像情報、文字情報、枠情報等をオブジェクトとして取扱い、これらのオブジェクトを例えばデータ記憶装置15に登録しておき、構造化されたオブジェクトの集合体として描画処理して表示装置13の表示画面に表示するとともに、印刷処理装置14より印刷出力する。

【0015】

そして、編集処理装置12は、データ記憶装置15に記憶されている、あるいは表示装置13に表示されているオブジェクトの表示あるいは印刷出力する大きさ（サイズ）を入力装置11よりの指示入力により自由に変更することが可能である。このサイズの変更の詳細は後述する。

図2は、本実施の形態例におけるオブジェクト集合体の一例である4つのオブジェクトで構成されたウインドウの例を示す図である。図2に示す例においては、横方向（x軸方向）のみのサイズ変更を行なった場合について、サイズ変更前とサイズ変更後の状態について、表示装置13に描画された表示状態を示してい

る。上段がサイズ変更前の状態を、下段にサイズ変更（拡大）後の状態を示している。

【0016】

なお、図2においてサイズ変更前後のウインドウ位置は、説明をわかりやすくするために意図的に下方に動かしているが、表示装置13に表示されるウインドウの基準位置は変わらない。

図2において、20はサイズ変更前の外枠ウインドウとしてのオブジェクト、W20は外枠ウインドウ20の幅、21は外枠ウインドウ20を構成するオブジェクトの一つである左側部分のオブジェクト、X21は左側部分のオブジェクト21の描画属性の一つである左端からのオブジェクト21の位置座標、W21は左側部分のオブジェクト21の描画属性の一つであるオブジェクト21の幅である。

【0017】

また、22は外枠ウインドウ20を構成するオブジェクトの一つである中側部分のオブジェクト、X22は中側部分22の描画属性の一つである左端からのオブジェクト22の位置座標、W22は中側部分22の描画属性の一つであるオブジェクト22の幅である。

23は外枠ウインドウ20を構成するオブジェクトの一つである右側部分のオブジェクト、X23は右側部分23の描画属性の一つである左端からのオブジェクト23の位置座標、W23は右側部分23の描画属性の一つであるオブジェクト23の幅である。

【0018】

24はサイズ変更後の外枠ウインドウとしてのオブジェクト、W24はサイズ変更後の外枠ウインドウ24の幅、25はサイズ変更後の外枠ウインドウ24を構成するオブジェクトの一つである左側部分のオブジェクト、X25はサイズ変更後の外枠ウインドウ25の描画属性の一つである左端からのオブジェクト25の位置座標、W25はサイズ変更後の外枠ウインドウ25の描画属性の一つであるオブジェクト25の幅である。

【0019】

26はサイズ変更後の外枠ウインドウ24を構成するオブジェクトの一つである中側部分のオブジェクト、X26は中側部分26の描画属性の一つである左端からのオブジェクト26の位置座標、W26は中側部分26の描画属性の一つであるオブジェクト26の幅である。

27は変更後の外枠ウインドウ24を構成するオブジェクトの一つである右側部分のオブジェクト、X27は右側部分27の描画属性の一つである左端からのオブジェクト27の位置座標、W27は右側部分27の描画属性の一つであるオブジェクト27の幅である。

【0020】

図3は図2の処理における編集処理装置12の制御フローチャートの一例を示す図である。以下、図2及び図3を参照して本実施の形態例におけるオブジェクトのサイズ変更処理を説明する。以下の説明は図3に示す処理の流れに沿って行う。

まず、処理すべき対象のオブジェクトを表示装置の表示画面に表示させる。これは、例えばデータ記憶装置に記憶されている各種の枠情報中より入力装置11より図2に示す枠を選択する。この選択は、データ記憶装置15に記憶されている各種の枠情報、画像情報、及び文書情報等より順次所望の情報を選択していくべき。例えばデータ記憶装置15に記憶されている情報を特定のグループ毎に特定可能な大きさで多数表示し、入力装置11より所望のものを順次選択することにより行えば良い。

【0021】

この様にして選択された、あるいは選択途中で、既に選択された情報の表示サイズ（印刷出力サイズ）を変更する必要が生じると図3に示す処理に移行する。まずステップS31で表示装置13に表示中の図2の上段に示す外枠ウインドウ20の右端部分をマウスで引っ張りサイズ変更を行う。

サイズの変更指示が行われるとステップS32の処理に進み、サイズ変更が行われたオブジェクト群全てに対するオブジェクトとの描画属性の決定が終了したか否かを調べる。最初は全てのオブジェクト属性の決定が終了していないためステップS32よりステップS33に進み、変更したサイズでのウインドウを構成

する一つひとつのオブジェクトに対して、オブジェクトが各々保持している属性によって、集合体のサイズ変更に応じた新たな属性を決定する。そしてステップ S 3 2 に戻る。

【0022】

例えば、図2のオブジェクト21を見ると、サイズ変更差分 ($w_{24} - w_{20}$) と変更前のサイズ w_{20} との比率 (α) により、オブジェクト21のサイズ w_{21} は属性 $f_{21w}(\alpha)$ にて決定され、描画位置は属性 $f_{21x}(\alpha)$ によって決定される。その他のオブジェクトにおいても、個々の属性に応じて決定される。

このようにして全てのオブジェクトについて一つひとつの属性を決定し、全てのオブジェクトについて属性を決定したならばステップ S 3 2 よりステップ S 3 4 に進み、新たに決定された属性によって全てのオブジェクトを描画する。

【0023】

なお、新たな属性によるオブジェクトの描画は、図3に示すフローチャートに示すように、全ての属性が決定した後でまとめて全てのオブジェクトを描画する方法だけでなく、一つひとつ属性を決定すると即座に描画する方法も考えられる。

図2においては、横方向 (x方向) のサイズ変更のみの例を挙げているが、縦方向 (y方向) も組み合わせることにより、様々な位置に様々な大きさのオブジェクトを、ウインドウ内に意図的に配置できる。

【0024】

この様に、例えば枠を多数のオブジェクトの集合群として表わし、各枠の構成要素であるオブジェクト毎に描画属性を付随させ、枠の大きさを変更する場合に、枠の各構成要素毎に独立した描画特性をもたせることができ、オブジェクト毎の描画属性を適切に設定しておくことにより、オブジェクト集合体のサイズが変更された場合に、オブジェクト集合体を構成する各オブジェクトが保持しているサイズ変更を加えた場合の各々の持つ属性に基づいた描画を行った結果として、オブジェクトの位置や大きさについて、オブジェクト集合体の持つ意図から、何ら違和感の無い描画を行うことができる。

【0025】

以下、本実施の形態例における等のオブジェクト群の大きさを変更する場合における各オブジェクト毎の独立した描画属性の決定方法を説明する。図4は本実施の形態例におけるサイズ変更時の属性の決定方法を説明するための図である。図4の例は、オブジェクト集合体の一例として、3つのオブジェクトで構成されたウインドウの例である。図4の例においては、横方向（x軸方向）と縦方向（y軸方向）を組み合わせたサイズ変更を行った場合についての第1のサイズにおける例と第2のサイズにおける例、及び第1の例と第2の例の中間のサイズに変倍指定された場合の表示装置13に描画される表示状態を示している。

【0026】

なお、以下の説明はわかりやすくするために横方向（x軸方向）のオブジェクトの動きに絞って説明する。但し、縦方向（y軸方向）についても略同様の動きである。なお、図4においては、各々のウインドウ位置は、説明をわかりやすくするために意図的に右上方に動かしているが、表示装置13に表示される各ウインドウの基準位置は変わらない。

【0027】

図4において、41が第1のサイズにおける描画属性による表示例であり、x軸方向の基準値（x1）におけるウインドウとしてのオブジェクトの例である。42が第2のサイズにおける描画属性による表示例であり、x軸方向の基準値（x2）におけるウインドウとしてのオブジェクトの例である。また、43が第1の例と第2の例の中間のサイズに変倍指定された場合の表示装置13に描画される表示状態を示しており、x軸方向の任意の値（x3）におけるウインドウとしてのオブジェクトの例である。

【0028】

そして、aはオブジェクトの一つであるベジエ曲線の閉領域で描画された星型オブジェクト、bはオブジェクトの一つであるベジエ曲線の閉領域で描画された三角形型オブジェクト、cはオブジェクトの一つであるベジエ曲線の閉領域で描画された丸型オブジェクトを示している。

x軸方向の基準値（x1）におけるウインドウ41において、w41は外枠ウインドウ41の幅、x41aはウインドウ41におけるオブジェクトaのx軸方

向の位置座標、 x_{41b} はウインドウ41におけるオブジェクトbのx軸方向の位置座標、 x_{41c} はウインドウ41におけるオブジェクトcのx軸方向の位置座標である。

【0029】

更に、x軸方向の基準値(x_2)におけるウインドウ42において、 w_{42} はウインドウ42の幅、 x_{42a} はウインドウ42におけるオブジェクトaのx軸方向の位置座標、 x_{42b} はウインドウ42におけるオブジェクトbのx軸方向の位置座標、 x_{42c} はウインドウ42におけるオブジェクトcのx軸方向の位置座標である。

【0030】

本実施の形態例では図4に示す例に限らず、編集処理装置12で編集可能な全ての枠オブジェクトに対して、第1のサイズ(基準値 x_1 、 y_1)におけるオブジェクト及び当該オブジェクトの描画属性と、第2のサイズにおける(基準値 x_2 、 y_2)におけるオブジェクト及び当該オブジェクトの描画属性を例えばデータ記憶装置15内に保持している。そして、以下の43に示す例と同様にしてあらゆるサイズへの変更時のオブジェクトの描画に対処可能としている。

【0031】

即ち、任意のサイズへのオブジェクトの変倍が指定されると、第1のサイズでの描画属性と第2のサイズでの描画属性とを比較し、両描画属性間の変化量より指定された任意のサイズとした場合の描画属性を求め、サイズ変更に応じたオブジェクトの描画属性を決定する。

このようにして決定されたx軸方向の任意の値(x_3)における外枠ウインドウとしてのオブジェクト43において、 w_{43} はウインドウ43の幅、 x_{43a} はウインドウ43におけるオブジェクトaのx軸方向の位置座標、 x_{43b} はウインドウ43におけるオブジェクトbのx軸方向の位置座標、 x_{43c} はウインドウ43におけるオブジェクトcのx軸方向の位置座標である。

【0032】

ウインドウ43の星型オブジェクトaの描画位置を示す描画属性 w_{43a} は、ウインドウ41の幅 w_{41} に対する星型オブジェクトaの描画位置 w_{43a} の割

合と、ウインドウ 4 2 の幅 w 4 2 に対する星型オブジェクト a の描画位置 w 4 2 a の割合の変化量より、ウインドウ 4 3 の大きさに対する幅 w 4 3 と星型オブジェクト a の描画位置 w 4 3 a の割合を求めて、任意のサイズでの星型オブジェクト a の描画位置属性とする。

【0033】

これは、三角形型オブジェクト b、丸型オブジェクト c の描画位置属性 4 3 b 、 4 3 c についても同様である。更に、星型オブジェクト a、三角形型オブジェクト b、丸型オブジェクト c の各オブジェクトの描画時の各図形の幅についても同様に、4 1 と 4 2 との各オブジェクトの各図形の幅の変化量の比較より、任意のサイズにおける各図形の幅を決定する。

【0034】

図 5 は、各オブジェクトの持つデータ構造の一例として、星型オブジェクト a の持つ属性の一部を示す図である。

図 5 において、5 0 1 は図形の種類を示すデータ、5 0 2 は図 4 に示す x 軸方向の最小基準値 x 1 におけるウインドウ内のオブジェクトの位置座標としてのベジエ曲線データ、5 0 3 は図 4 に示す x 軸方向の最大基準値 x 2 におけるウインドウ内のオブジェクトの位置座標としてのベジエ曲線データ、5 0 4 は星形图形描画のためのベジエ曲線の結合開始フラグデータである。

【0035】

5 0 5 は星形图形描画のためのベジエ曲線データ、5 0 6 は星形图形描画のためのベジエ曲線の結合終了フラグデータ、5 0 7 は星形图形オブジェクトに背景を付けるために行うマスクのためのベジエ曲線のマスク結合開始フラグデータ、5 0 8 はマスク設定のためのベジエ曲線データ、5 0 9 はマスク設定のためのベジエ曲線データの結合終了フラグデータ、5 1 0 は星形图形に埋め込む画像や文字の領域を設定するためのベジエ曲線データ、5 1 1 は星形图形に埋め込む画像や文字のデータである。

【0036】

図 6 は図 5 に示す属性を持つオブジェクトの表示例を示す図である。図 6 に示す例では、星形图形に埋め込まれている（はめ込まれている）图形は、この星が

他図形よりはみ出る部分は自動的に削除した形で表示され、例えば図4に示す様に星形図形が変倍された時には表示される図形の範囲が変動することになる。なお、この場合において、画像の中心は変更されず、別途入力装置11で張り付けられた時の位置関係が保持される。

【0037】

図7は図4における各オブジェクトのx軸方向の座標の変化の一例を示す図である。

図7において、71は図4の外枠ウインドウにおけるx軸方向の最大値、72は図4の外枠ウインドウにおけるx軸方向の最小値、73は図4のオブジェクトaのx軸方向の位置座標、74は図4のオブジェクトbのx軸方向の位置座標、75は図4のオブジェクトcのx軸方向の位置座標である。

【0038】

本実施の形態例においては、原則的には描画位置属性は上述した第1のサイズのオブジェクトと描画位置と第2のサイズのオブジェクトと描画位置とのサイズと描画位置の変化割合より一義的に決定するのであるが、例えば図4の例でいえば丸型図形や星形図形は、第1のサイズと第2のサイズ間で描画属性の描画位置にかなりの変動が有り、例えば第2のサイズのオブジェクトよりかなり大きなサイズに変倍指定した場合には、このままでは外枠の外側に飛び出てしまい、極端な場合には外枠内より消えてしまうことにもなる。このような事態は好ましくないため、本実施の形態例においては、第1のサイズと第2のサイズ間以外のサイズが指定された場合には、その変化割合より描画可能な最大の大きさの範囲内で外枠の中に全てのオブジェクトが納まるように描画するための描画位置の制御が行われる。

【0039】

即ち、図7に示す例では、星形図形描画位置73がx1とx2間の変化割合のまま描画位置を変化させていくと、73bに示すような描画位置になり、p1に示す位置で外枠の外側に到達してしまう。このため、x2の外側においてはサイズ0の（大きさ0の）位置よりx2の時点の星形図形aの位置をむすぶ直線73aの延長線上位置に対応する位置を描画位置として外枠71の外側にくることが

ないように描画位置の変化割合を制御する。

【0040】

これは、丸型図形cについても同様である。即ち、丸型図形cにおいては、 x_1 と x_2 間の変化割合のまま描画位置を変化させていくと、75bに示すような描画位置になり、p2に示す位置で外枠の外側に到達してしまう。このため、 x_2 の外側においてはサイズ0の（大きさ0の）位置より x_2 の時点の丸型図形cの位置をむすぶ直線75aの延長線上位置に対応する位置を描画位置として外枠72の外側にくることがないように制御する。

【0041】

これらの制御はy方向についても全く同様である。

以上の説明した本実施の形態例によれば、オブジェクト集合体のサイズが変更された場合に、オブジェクト集合体を構成する各オブジェクトが保持しているサイズ変更を加えた場合の各々の持つ属性に基づいた描画を行った結果として、オブジェクトの位置や大きさについて、オブジェクト集合体の持つ意図から、何ら違和感無く描画が行えたことがある。更に、オブジェクトに外枠が設定されている場合には、オブジェクトの変倍が行われても、オブジェクト集合体の持つ意図から大きく外れることなく変倍後のオブジェクトが枠の外側にはみ出ることを防止できる。

【0042】

図3に示す処理を実行した場合の具体的な例として、図4に示すオブジェクト群の変倍描画処理の場合を例として説明する。

図4において、外枠ウインドウ41の右端や右下部分をマウスで引っ張りサイズ変更を行う（S31）と、ウインドウを構成するオブジェクトの一つひとつのオブジェクトに対して、 x 軸方向の最小基準値 x_1 と x 軸方向の最大基準値 x_2 の範囲での変更であるか否かを判断（S32）する。

【0043】

この時、 x_1 と x_2 の範囲内であれば x_1 と x_2 との写像の中でオブジェクトの持つ属性をもとに位置座標を決定する。また、変更が x_2 よりも大きく、かつ x_1 と x_2 との写像の延長線が x 軸方向の最大値31と最小値32に交差しない

場合は、 x_1 と x_2 との写像の中で、オブジェクトの持つ属性をもとに位置座標を決定する。

【0044】

一方、変更が x_2 よりも大きく、かつ x_1 と x_2 との写像の延長線が x 軸方向の最大値 3_1 と最小値 3_2 に交差する場合（ p_1 、 p_2 ）は、 x_2 の位置から比例的に位置座標を決定する。また、変更が x_1 よりも小さく、かつ x_2 と x_1 との写像の延長線が x 軸方向の最大値 3_1 と最小値 3_2 に交差しない場合は、 x_1 と x_2 との写像の中でオブジェクトの持つ属性をもとに位置座標を決定する。

【0045】

また、変更が x_1 よりも小さく、かつ x_2 と x_1 との写像の延長線が x 軸方向の最大値 3_1 と最小値 3_2 に交差する場合は、限界値 x_0 までは、 x_1 の位置から比例的に位置座標を決定する。

以上のように、オブジェクト集合体のサイズ変更にあたっては、オブジェクトが各々保持している属性と、2点以上の基準値を踏まえ、新たな属性を決定（S 3 3）する。

【0046】

例えば、図4において、オブジェクト43を見ると、 x 軸方向の変化 x_3 は、基準値 x_1 と基準値 x_2 の範囲にあり、 x_1 と x_2 との写像の中で、各オブジェクト（a, b, c）が変化している。この場合、オブジェクトaを見ると、変更後のサイズ $w43$ により、aの描画位置 $x43b$ は、図5に示すベジエ属性f（ $w43$ ）にて決定される。その他のオブジェクトにおいても、個々の属性に応じて決定される。

【0047】

このように、全てのオブジェクトについて一つひとつの属性を決定し、全てのオブジェクトについて属性を決定したならば（S 3 2）、決定された新たな属性によって、全てのオブジェクトを描画（S 3 4）する。

なお、新たな属性によるオブジェクトの描画は、ステップS 3 4に示すように、全ての属性が決定した後でまとめて全てのオブジェクトを描画する方法だけではなく、一つひとつ属性を決定すると即座に描画する方法も考えられる。

【0048】

図4においては、横方向(x方向)のサイズ変更のみの説明しているが、縦方向(y方向)も同様に属性が設定されており、様々な位置に様々な大きさのオブジェクトを、ウインドウ内に意図的に配置できる。

以上説明したように本実施の形態例によれば、オブジェクト集合体のサイズが変更された場合に、オブジェクト集合体を構成する各オブジェクトが保持しているサイズ変更を加えた場合の各々の持つ属性に基づいた描画を行った結果として、オブジェクトの位置や大きさについて、オブジェクト集合体の持つ意図から、何ら違和感無く描画が行える。

【0049】

次に、枠内に埋め込まれる(はめ込まれる)文書情報あるいは画像情報の取扱い及び枠属性との関係を説明する。

以上の様にして枠の大きさの設定を行うことになるが、本実施の形態例においては、データ記憶装置15には、予め複数の枠がテンプレートとして登録されており、また、はめ込むべく画像情報、文書情報などもそれぞれ登録されている。そして、表示装置13の表示画面を用いて必要に応じて所望の枠、図形、文書等を選択し、それらを任意に組合させて印刷装置14より印刷出力させることができる。

【0050】

また、文書情報及び画像情報は、組合せの任意の段階で別途入力装置11より入力して埋め込むことも可能に構成されている。

以下、本実施の形態例における枠の選択処理及び枠への埋め込み処理の詳細を説明する。まず、枠(フォトフレーム)への画像データの埋め込み処理を図8のフローチャートを参照して説明する。図8は本実施の形態例における枠の選択処理及び枠への画像データの埋め込み処理を示すフローチャートである。

【0051】

操作者はステップS51で画像データ及び画像データを埋め込むフォトフレームの選択を行う。この選択は例えば以下の手順で行う。表示装置13の表示画面に予めデータ記憶15に登録されている複数の画像を例えば画面に右側に縮小し

て一覧表示し、表示された画像データ中の所望の画像を入力装置11のマウスでダブルクリックすることにより当該画像が選択され画面の左側に拡大された図形として表示させる。

【0052】

又は、所望の画像をマウスで選択して移動させ、左画面に重ねておくことにより、表示をさせててもよい。更に、入力装置11にスキヤナや、CDROM装置、FD装置、デジタルカメラ等の画像入力装置が備えられている場合には、係る画像入力装置より画像データを読み込んで読み込んだ画像を所定の大きさの画像データとして画面の左側に表示させる。

【0053】

続いて操作者は、表示装置13の表示画面に予めデータ記憶15に登録されている枠のうち画像データを埋め込むべく予め設計された枠であるフォトフレーム選択画面を表示させる。そして、表示されたフォトフレーム中の所望のフォトフレームを選択する。この選択は、例えば入力装置11に備えられているマウスをダブルクリックすることにより行う。

【0054】

又は、所望のフォトフレームをマウスで選択して移動させ、画像データの上へ重ねることにより行ってもよい。

以下の説明は、画像データとして矩形の画像データを選択し、フォトフレームとして円形のフォトフレームを選択した場合を行なう。

ステップS51で画像データをフォトフレームの選択が終了した場合には、続くステップS52で画像データの矩形領域データXeの抽出をする。なお、ここでは、正置された（回転していない）包括矩形領域を抽出する。この抽出状態を図9に示す。図9はこの包括矩形領域の抽出状態を説明するための図である。

【0055】

次にステップS53で編集処理装置12は選択されたフォトフレームの枠内（表示領域）の矩形領域を求める。即ち、選択された画像データの画像フレームを構成する閉ベジエ曲線で定義される領域をもとに、同じく正置された（回転していない）包括矩形領域データXe'の抽出をする。

続いてステップS54で画像データの矩形領域データ X_e からフォトフレームの矩形領域データ X_e' への写像を行う変換関数 $f(x)$ を求める。そして、ステップS55で変換関数 $f(x)$ をもとに、上述した方法によりフレームオブジェクトC2の変換を行い、画像の大きさに応じて変倍された新たなフレームオブジェクトC2'を求める。

【0056】

次にステップS56で、画像フレームと画像データの貼り付けを行うため、求めた新たなフレームオブジェクトC2'の画像フレームの画像データ格納領域へ画像データ X_e を埋め込み結合する。そしてステップS57で新たな画像フレームを持った画像データの結合オブジェクトとしてデータ記憶装置15に格納し、同時に表示装置13の表示画面に表示する。この表示された状態を図10に示す。図10は選択された枠内に選択された画像データが埋め込まれた状態を示す図である。

【0057】

以上説明したように本実施の形態例によれば、フォトフレームに画像データを埋め込む場合には、画像データが基本となり、フォトフレームは画像データの包括矩形領域の抽出状態により上述した変倍処理における変倍が行われ、フォトフレームの基本態様を変更せずに画像データに合わせた形状としてはめ込みが行える。

【0058】

次に、この様にして選択された画像にフォトフレームを割り当てて画像の埋め込みを行なった結果、フォトフレームの置き換えを行う場合の処理を図11を参照して説明する。図11は本実施の形態例におけるフォトフレームの置き換え処理を示すフローチャートである。

フォトフレームの置き換えを行う場合には図11のステップS61において、再びフォトフレームのテンプレートを画面の右側に表示させ、置き換えるべき新たなフォトフレームを例えば入力装置11のマウスでダブルクリックするなどしてデータ記憶装置15のデジタルライブラリデータより選択し、新しいフレームデータの編集を開始させる。または、置き換えるべきフレームをマウスで選択し

て移動させ、画像データを結合表示されているフレームに重ねることにより置き換えるても良い。

【0059】

この場合、続くステップS62で新しいフレームデータの作成を行う。このフレームデータの作成は、上述した図8に示すステップS52～ステップS55の処理を新たなフレームに対して行うことによりフレームデータ（フレームオブジェクト）を作成することになる。

そして、ステップS63において、新たに得られたフレームオブジェクトに対して画像データのリンクを行い、新しいフレームデータ結合する。

【0060】

続いてステップS64で、今まで表示されていた古い画像フレームデータを削除する。そしてステップS65で新たな画像フレームが配置された画像データとしてデータ記憶装置15に格納する。同時にステップS66で表示装置13に表示を行う。このようにしてフォトフレームが変更された表示例を図12に示す。

以上の様にして容易にフォトフレームの置き換えが可能となる。

【0061】

本実施の形態例においては、以上の画像データに加え、文字データも取り扱うことができ、文字枠フレームに組み込むことが可能である。この文字データは、予めデータ記憶装置15に記憶させておき、これを読み出してきて使用しても良いが、入力装置11の例えばキーボード等より直接入力することも可能である。まず、この入力装置11よりの文字データの入力処理（文字ラベルの作成処理）を図13のフローチャートを参照して説明する。図13は本実施の形態例における文字データの作成処理を示すフローチャートである。

【0062】

文字枠選択を行うと、画面の左側の表示領域に図14に130で示す一定の矩形領域を持つ文字枠が表示され、枠の左上よりの文字入力を許容する状態となる。そして文字が未入力の状態では図14に示すガイダンスが表示され、一文字でも入力されるとこのガイダンスは消えて入力文字が表示される。

なお、本実施の形態例においては、原則として常時文字に入力は可能な状態に

あり、図14に示す文字枠は常時設定された状態である。この結果、いつでも文字を入力すれば図14に示す文字枠の左上の部分より表示されていることになる。そして、文字枠選択を行うと文字枠の範囲が自動表示される状態となるのである。

【0063】

そして文字が入力されると入力された文字が枠内に表示される。その時、ステップS72で入力された文字を枠内に連続して表示可能か否かを調べる。表示可能な場合にはステップS76に進み、入力が終了してこの文字枠が選択されたか否かを調べる。選択されていない場合にはステップS71に戻り、次の入力に備える。

【0064】

ステップS72で、枠内に連続して表示できない場合、即ち枠よりはみ出る場合にはステップS73に進み、列方向にあふれたのか、あるいは行方向にあふれたのかを調べる列方向にあふれた場合にはステップS74に進み、直前の文字で改行して新たに入力された文字を次の行の枠内の先頭に表示する。そしてステップS73に戻る。

【0065】

一方、ステップS73で行方向にあふれていた場合にはステップS75に進み、枠を1行分広げて入力文字を枠内に納めてステップS76に進む。このようにして順次入力を続け、この入力結果を有効として登録する場合には入力終了を指示して作成した文字枠及び文字枠内の文字情報を有効情報とする。

このようにして登録される文字枠及び文字データは、例えば以下のデータ構造を持つ。矩形領域を持つ文字枠のデータ構造は、文字枠の矩形領域を定義するベジエ閉曲線データ（矩形領域）、文字枠に文字を配置するための書式情報、文字枠に配置される文字情報より構成されている。

【0066】

このようにして、矩形文字配置領域オブジェクトを持つ文字枠オブジェクトが生成される。

次に、以上の様にして作成した文字枠オブジェクトを文字枠フレームへ埋め込

む処理を図15のフローチャートを参照して説明する。図15は本実施の形態例における文字枠フレームへ文字データ（文書データ）を埋め込む処理を示すフローチャートである。任意の文字枠オブジェクト（以下文字枠）の矩形領域の外側に、常にサイズ等の違和感なく任意の文字枠フレーム（文字ラベル）を結合することが可能となる。

【0067】

まずステップS81でデータ記憶装置15に登録されている文字を埋め込み可能な文字枠フレームを画面の右側に多数表示させ、所望の文字枠フレームをフォトフレームと同様にして選択すると共に、例えばテンプレートに登録しておいた文字枠（文字データ）を選択する、あるいは、予め文字を上述した様にして入力し、所望の文字枠フレームを選択する。そして、文字枠フレームと文字データとの結合処理を開始させる。

【0068】

続くステップS82で編集処理装置12は、選択された文字枠オブジェクトのベジエ閉曲線データ（矩形領域）より矩形文字枠における矩形領域データ X_j を得る。更にステップS83で編集処理装置12は、選択された文字枠フレーム（文字ラベル）を構成する矩形文字枠領域から矩形領域データ X_1 を得る。

そしてステップS84で矩形領域データ X_1 から矩形領域データ X_j への写像を行う変換関数 $f(y)$ を求める。続いてステップS85で、変換関数 $f(y)$ をもとに上述したフレームの変倍処理方法により文字枠フレーム（文字ラベル） F_m の変換（変倍）を行い、文字枠の大きさに対応した新たな文字ラベル $F_{m'}$ を得る。

【0069】

次にステップS86で新たな文字ラベル $F_{m'}$ の書式情報へ、文字枠の書式情報を設定する。そしてステップS87で文字ラベル $F_{m'}$ の文字データ領域（枠内の領域）へ、文字枠の文字データを埋め込む。この文字ラベルの文字データ領域は文字枠の文字データ領域を十分カバーする大きさに設定されたおり、文字枠フレームに位置付けた意図に沿った、違和感の無いオブジェクト集合体の描画処理とすることができます。

【0070】

このため、ステップS88でこれを新たな文字ラベルを持った文字枠の結合オブジェクトとして、データ記憶装置15に格納し、同時にステップS89で表示装置13に表示を行う。そして当該処理を終了する。

なお、この文字ラベルと文字データの結合において、文字ラベルには中に埋め込まれる文書データの属性を決定するデータも含ませることができ、このような属性が設定されている場合にはこの枠に付随する属性に従って文書データの埋め込み結果が決められる。

【0071】

例えば、文字ラベルがカラーラベルであり、枠部分の色とのバランス上文字の表示色も決められている場合が有りこの様な場合には予め決められた色での埋め込みとなる。また、フレームが一定の角度を持って表示されるようにデザインされている場合には、文字データも一定の角度を持って丁度選択された文字ラベルの中に納まるように傾いた形で表示される。画像データの場合には、回転させるか否かを選択できるように構成することが望ましいが、文書データの場合には納まる具合が限られることより、フレームの属性を優先させることとしている。

次に、この様にして選択された文字枠に文字ラベル（文字枠フレーム）を割り当てて文字データの埋め込みを行なった結果、文字ラベルの置き換えを行う場合の処理を説明する。この場合にも基本的には上述した図11に示すフォトフレームの置き換え処理と同様の処理により置き換えが行われる。

【0072】

文字ラベルの置き換えを行う場合には、再び文字ラベルのテンプレートを画面の右側に表示させ、置き換えるべき新たな文字ラベルを例えば入力装置11のマウスでダブルクリックするなどしてデータ記憶装置15のデジタルライブラリデータより選択し、新しい文字ラベル置き換えの処理を開始させる。または、置き換えるべき文字ラベルをマウスで選択して移動させ、文字枠に文字ラベルが結合表示されているデータの上に重ねることにより置き換えてもよい。

【0073】

この場合、上述したように新たに選択された文字ラベルの文字枠の大きさに応

じて変倍し、新しい文字ラベルデータの作成を行う。この文字ラベルの作成は、上述した図8に示すステップS52～ステップS55の処理を新たな文字ラベルに対して行うことにより文字ラベルデータ（フレームオブジェクト）を作成することになる。

【0074】

そして、新たに得られた文字ラベルオブジェクトに対して文字データのリンクを行い、新しいフレームデータ結合を行う。その後、今まで表示されていた古い文字ラベルデータを削除する。そして新たな文字ラベルが配置された文字データとしてデータ記憶装置15に格納する。同時に表示装置13に表示を行う。このようにして文字ラベルの置き換えが可能となる。

【0075】

以上の様にして文書データと文字枠フレーム（文字ラベル）との結合が行われ、又、画像データとフォトフレームとの結合が行われる。

本実施の形態例においては、このようにして所望の画像データ（例えば写真）や文字データを自在に予め設定されたフレーム内に収めることができる。

更に、以上の説明では、文字データは文字ラベル内に収納され、画像データがフォトフレーム内に埋め込まれたが、文字データと画像データの両方を埋め込むことが可能なフレームも存在する。このフレームを選択した場合には、フレーム中の任意の領域を文字領域、画像領域に振り分けることができる。

【0076】

最後に、この様にしてフレームと文字又は画像が一体として結合されたフレームの大きさを変え、変倍処理を行う場合のフレームと埋め込まれる文字又は画像との関係を説明する。

本実施の形態例においては、画像データはいかなる場合であっても変倍処理は行なわず、例えばフレームを拡大すればフレームの中心に画像データがくるように位置決めして埋め込み、フレームを縮小した場合にも画像データはフレームの中心にくるように配置してフレームよりはみ出す部分は表示しないように制御する。又、文字と画像の両方が生め込み可能に構成されているフレームの場合には、フレーム全体に対する画像フレームの位置関係を維持してこの位置関係が変わ

らないようにフレームの拡大縮小を行う。

【0077】

但し、本実施の形態例においては、フレーム中の文字と画像が混在し、画像データの領域が予め指定されている場合には、フレーム全体の大きさが大きくなつても、又小さくなつても、画像データ領域の大きさは変えない。従って、表示位置だけが変更となるわけである。但し、別途の処理において画像領域の位置関係を変更することは可能である。

【0078】

このように、画像データの割り当てられた領域の大きさを変更しないこととしたのは、以下の理由からである。

(1) 文字と画像が混在する場合において、文字が主体である場合には画像は挿絵的なものであり、大きさが変わってかえって不具合が生じるからである。

(2) 一方、画像が主体の場合には、予め最適な大きさに画像を設定してトリミングしていると考えられることより、むやみに表示範囲を広げることが避けたいことと、このような場合における画像データの説明を行う文字部分の分量を増やしたい場合が考えられるからである。

【0079】

次に、文字枠に対するフレームの変倍処理について説明する。

本実施の形態例においては、文字枠の変倍処理の大きな特徴を有しており、図16に示す変倍処理が行われる。

即ち、まずステップS101で編集装置12は、サイズが変更されたのは縦方向のみか、横方向のみか、あるいは縦方向と横方向の両方かが判断される。縦方向と横方向の両方が変倍指定された場合にはステップS102に進み、変更後の文字枠フレーム（文字領域と画像領域が混在する場合には文字領域）の枠内のサイズを算出し、元のサイズに対する変倍率を算出する。

【0080】

そしてステップS103で算出した変倍率に従って元のフレーム内に埋め込まれていた、文字枠オブジェクトの大きさを変更し、丁度変倍後のフレーム中に納まるようにして埋め込み、新たな文字ラベルが配置された文字データとしてデー

タ記憶装置15に格納する。そして変倍処理を終了する。

一方、ステップS102で縦方向又は横方向のみの変倍であった場合にはステップS110に進み、変倍後のフレームサイズを算出する。そして、続くステップS111で変更後のフレームサイズ内に変更前の文字枠データ（文字データ）をフレームの基準初期位置よりはめ込んでみて行の最終桁の文字がフレームよりはみ出るか否かを調べる。はみ出ない場合にはステップS113に進む。

【0081】

一方、はみ出る場合にはステップS112に進み、はみ出る最初の行の文字列をはみ出ない位置で改行する。そしてステップS113に進む。

ステップS113では、1行の文字列の最後の桁が枠からはみ出ておらず、且つ最後の桁の次にスペースが有るか否かを調べる。そして、スペースがなければ当該変倍処理を終了する。スペースが有ればステップS114に進み、そのスペースが有る次の行が存在するか否かを調べる。次の行が存在しなければ当該処理を終了する。

【0082】

一方、ステップS114で次の行が有る場合にはステップS115に進み、当該スペースの有る文字列の改行をなくして連続した文字列としてステップS111に戻す。この改行をなくした結果、文字列がフレームからはみ出した場合にはステップS112ではみ出さないように改行されることになる。

以上の処理は、フレーム内が全て文字領域である文字ラベルの場合のほか、文字領域と画像領域が混在している場合にも適用され、混在している場合には上述したように画像領域に大きさの変更は無いことより、文字領域のみが変動することになる。

【0083】

【他の実施形態】

なお、本発明は、複数の機器（例えばホストコンピュータ、インターフェイス機器、リーダ、プリンタなど）から構成されるシステムに適用しても、一つの機器からなる装置（例えば、複写機、ファクシミリ装置など）に適用してもよい。

また、本発明の目的は、前述した実施形態の機能を実現するソフトウェアのプ

ログラムコードを記録した記憶媒体を、システムあるいは装置に供給し、そのシステムあるいは装置のコンピュータ（またはCPUやMPU）が記憶媒体に格納されたプログラムコードを読み出し実行することによっても、達成されることは言うまでもない。

【0084】

この場合、記憶媒体から読み出されたプログラムコード 자체が前述した実施形態の機能を実現することになり、そのプログラムコードを記憶した記憶媒体は本発明を構成することになる。

プログラムコードを供給するための記憶媒体としては、例えば、フロッピディスク、ハードディスク、光ディスク、光磁気ディスク、CD-ROM、CD-R、磁気テープ、不揮発性のメモリカード、ROMなどを用いることができる。

【0085】

また、コンピュータが読み出したプログラムコードを実行することにより、前述した実施形態の機能が実現されるだけでなく、そのプログラムコードの指示に基づき、コンピュータ上で稼働しているOS（オペレーティングシステム）などが実際の処理の一部または全部を行い、その処理によって前述した実施形態の機能が実現される場合も含まれることは言うまでもない。

【0086】

さらに、記憶媒体から読み出されたプログラムコードが、コンピュータに挿入された機能拡張ボードやコンピュータに接続された機能拡張ユニットに備わるメモリに書き込まれた後、そのプログラムコードの指示に基づき、その機能拡張ボードや機能拡張ユニットに備わるCPUなどが実際の処理の一部または全部を行い、その処理によって前述した実施形態の機能が実現される場合も含まれることは言うまでもない。

【0087】

本発明を上記記憶媒体に適用する場合、その記憶媒体には、先に説明したフローチャートに対応するプログラムコードを記憶媒体に格納することになる。

【0088】

【発明の効果】

以上説明したように本発明によれば、文字枠や図形や画像を縁取る枠や、グループ化図形を、オブジェクト集合体として捉え、このオブジェクト集合体のサイズを変更した場合に、その枠やグループ化図形に対して位置付けた意図に沿った、違和感の無いオブジェクト集合体の描画処理を行う、オブジェクトによって構造化されたオブジェクト集合体を処理する画像処理装置及び方法を提供することができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

本発明に係る一発明の実施の形態例を示す全体の概略ブロック図である。

【図 2】

本実施の形態例におけるオブジェクト集合体の一例である 4 つのオブジェクトで構成されたウインドウの例を示す図である。

【図 3】

図 2 に示す処理における編集処理装置の制御フローチャートの一例を示す図である。

【図 4】

本実施の形態例におけるサイズ変更時の属性の決定方法を説明するための図である。

【図 5】

本実施の形態例における星型オブジェクト a の持つ属性の一例を示す図である

【図 6】

図 5 に示す属性を持つオブジェクトの表示例を示す図である。

【図 7】

図 4 における各オブジェクトの x 軸方向の座標の変化の一例を示す図である。

【図 8】

本実施の形態例における枠の選択処理及び枠への画像データの埋め込み処理を示すフローチャートである。

【図 9】

本実施の形態例における画像データの包括矩形領域の抽出状態を説明するための図である。

【図10】

本実施の形態例におけるフォトフレーム内に選択された画像データが埋め込まれた状態を示す図である。

【図11】

本実施の形態例におけるフォトフレームの置き換え処理を示すフローチャートである。

【図12】

本実施の形態例におけるフォトフレームの置き換え結果を示す図である。

【図13】

本実施の形態例における文字データの作成処理を示すフローチャートである。

【図14】

本実施の形態例における文字データの入力文字枠を説明するための図である。

【図15】

本実施の形態例における文字枠フレームへ文字データを埋め込む処理を示すフローチャートである。

【図16】

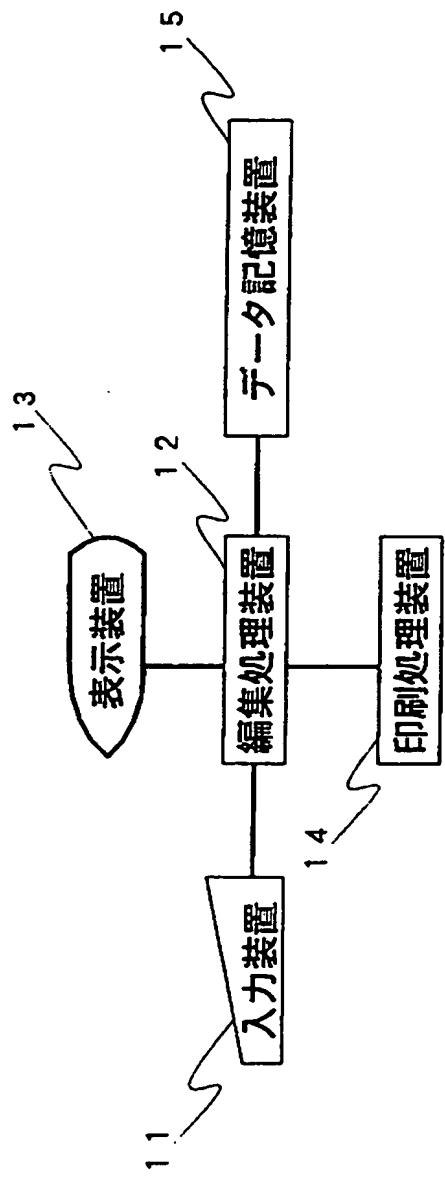
本実施の形態例における文字枠フレームへの文字データを埋め込み終了後のフレーム変倍処理を示すフローチャートである。

【図17】

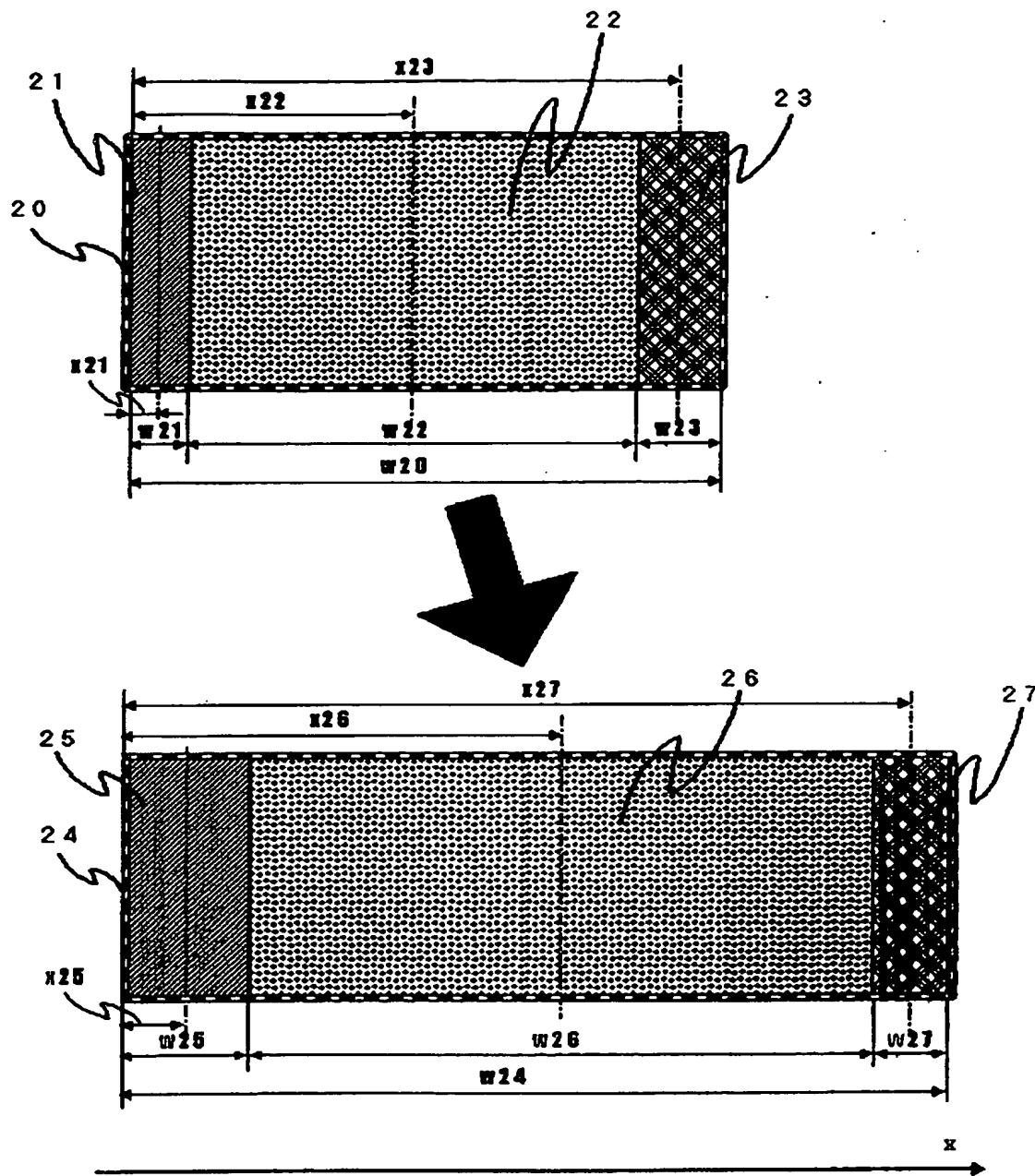
従来のフレーム変倍例を説明するための図である。

【書類名】 図面

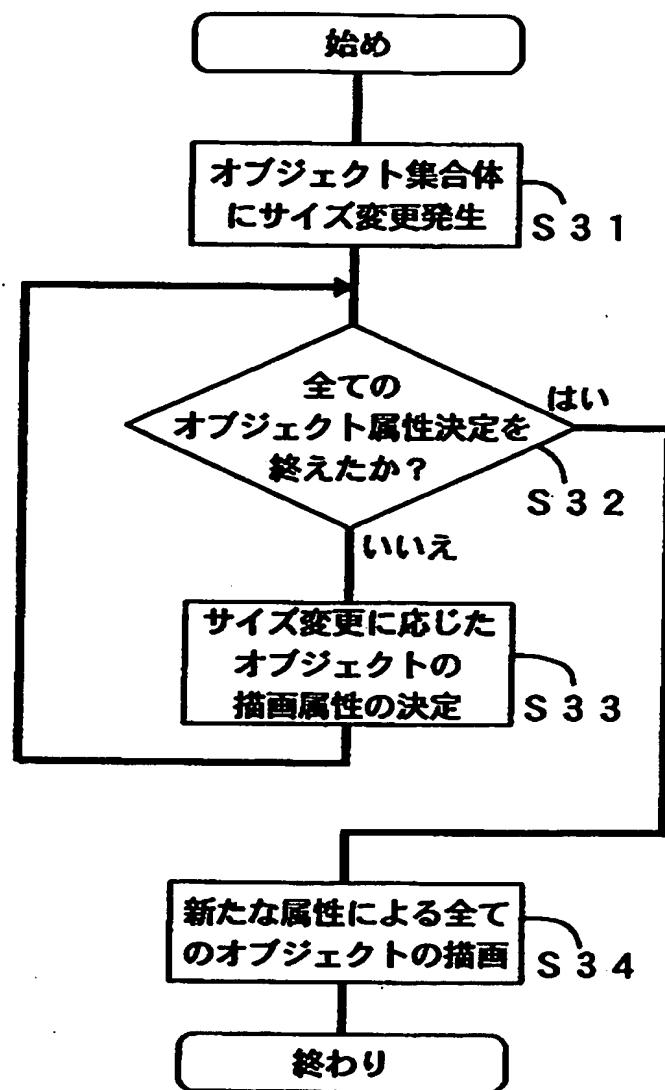
【図 1】



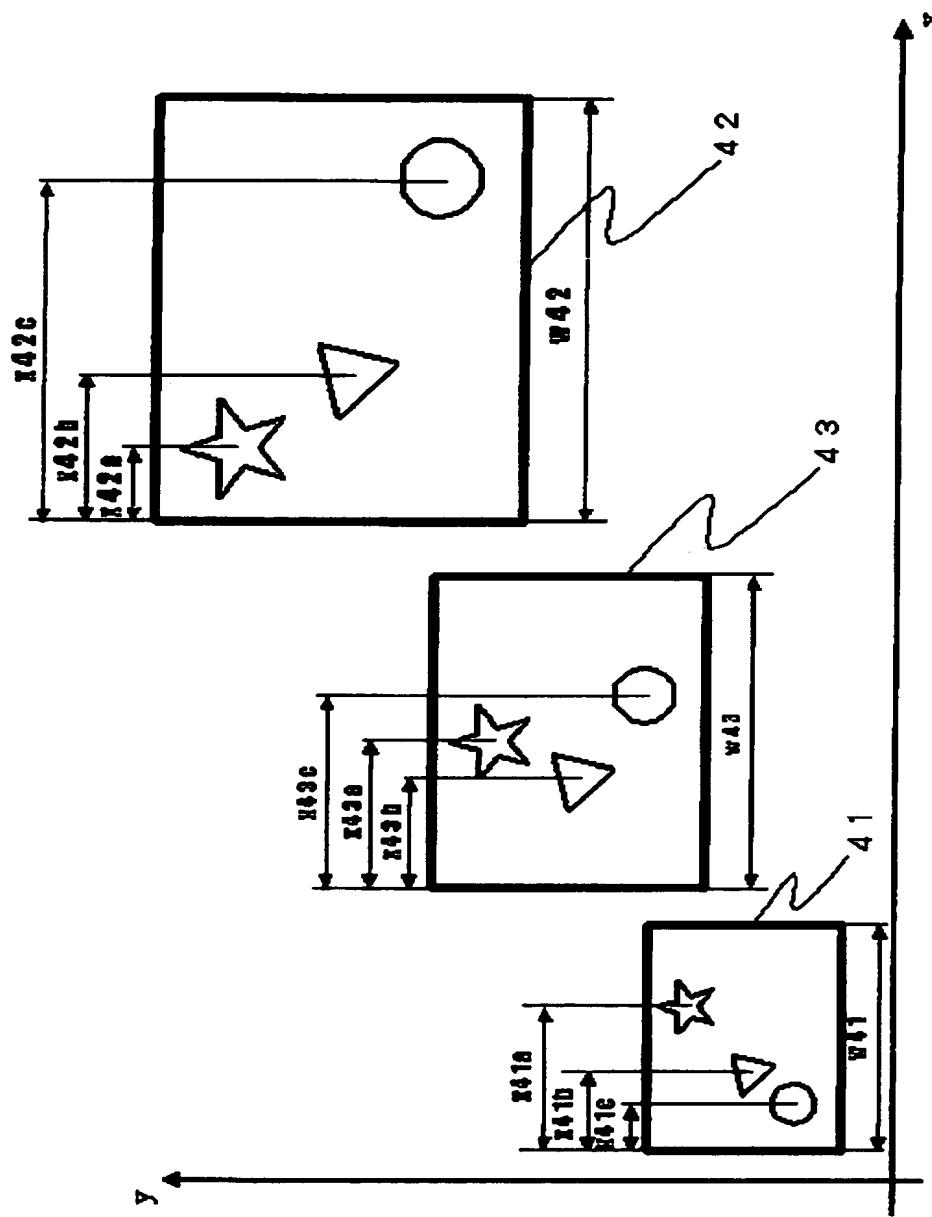
【図2】



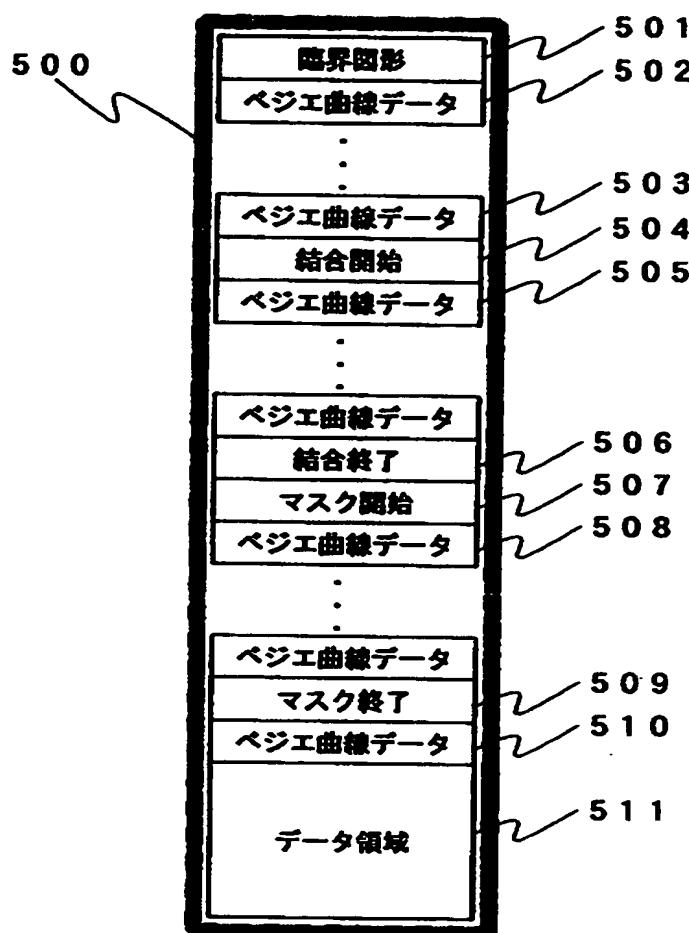
【図3】



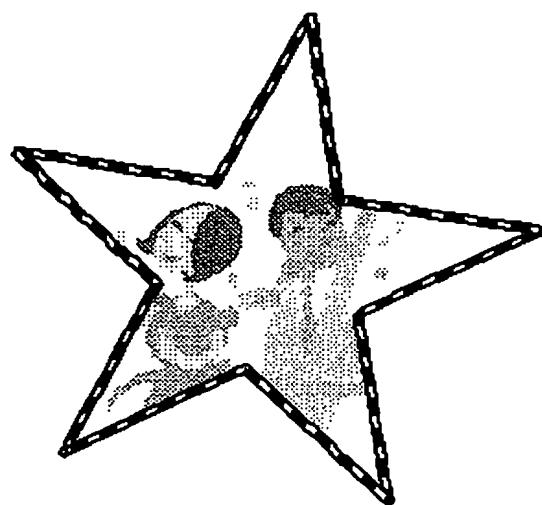
【図4】



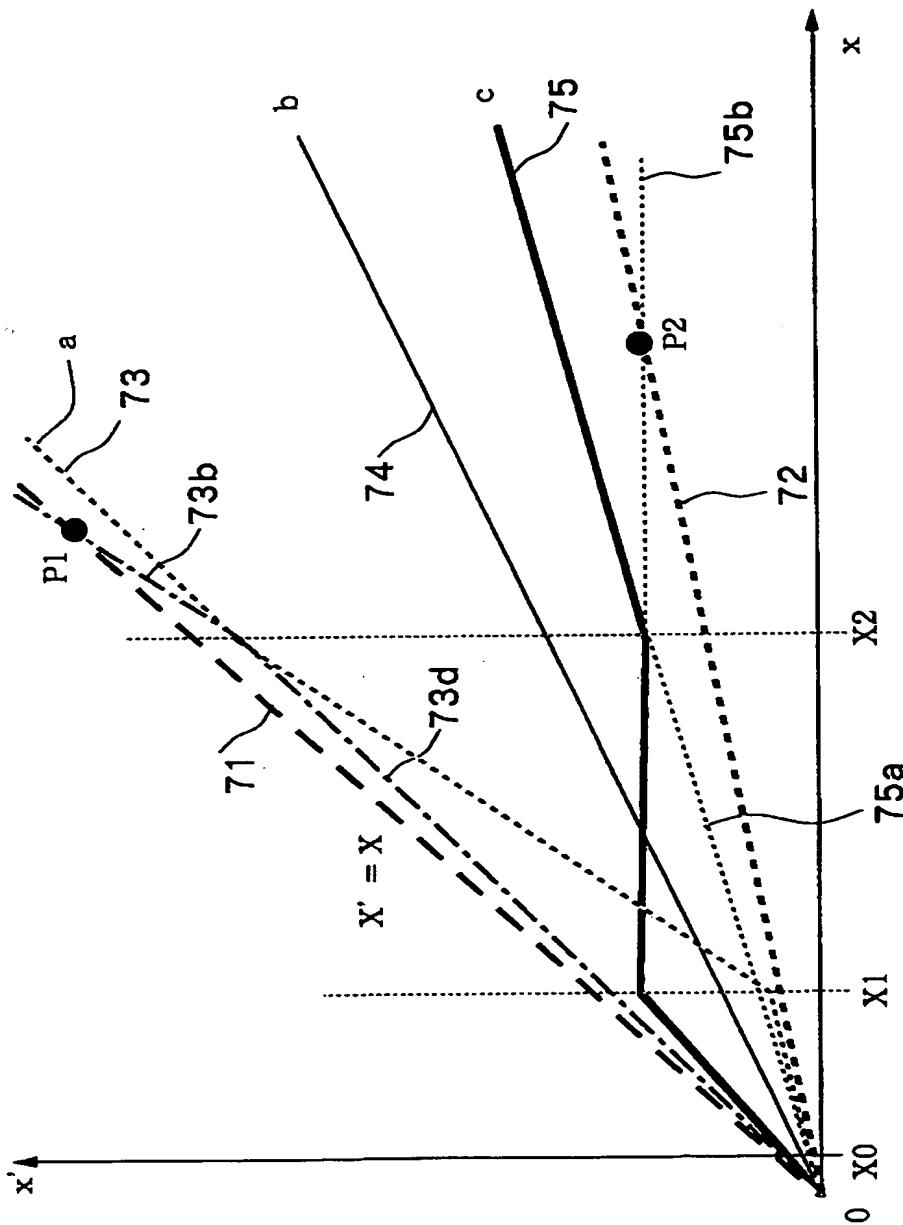
【図 5】



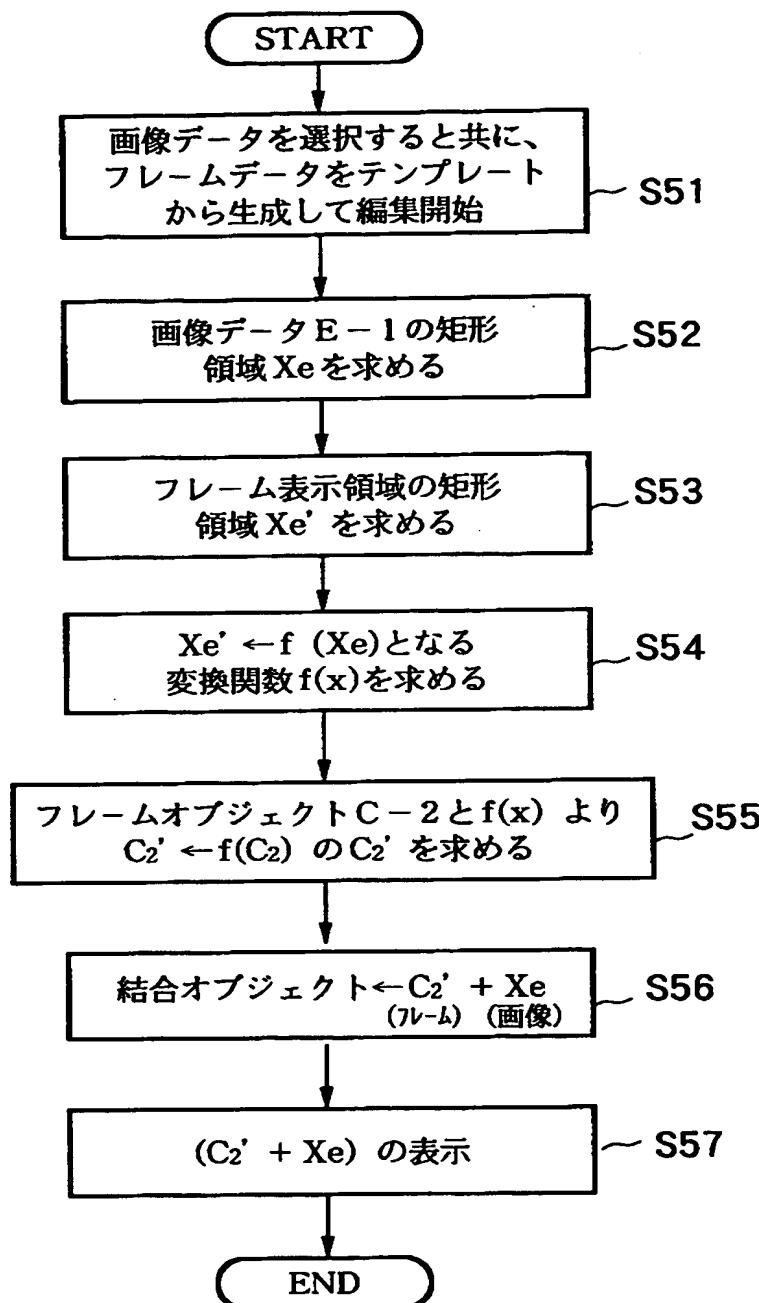
【図 6】



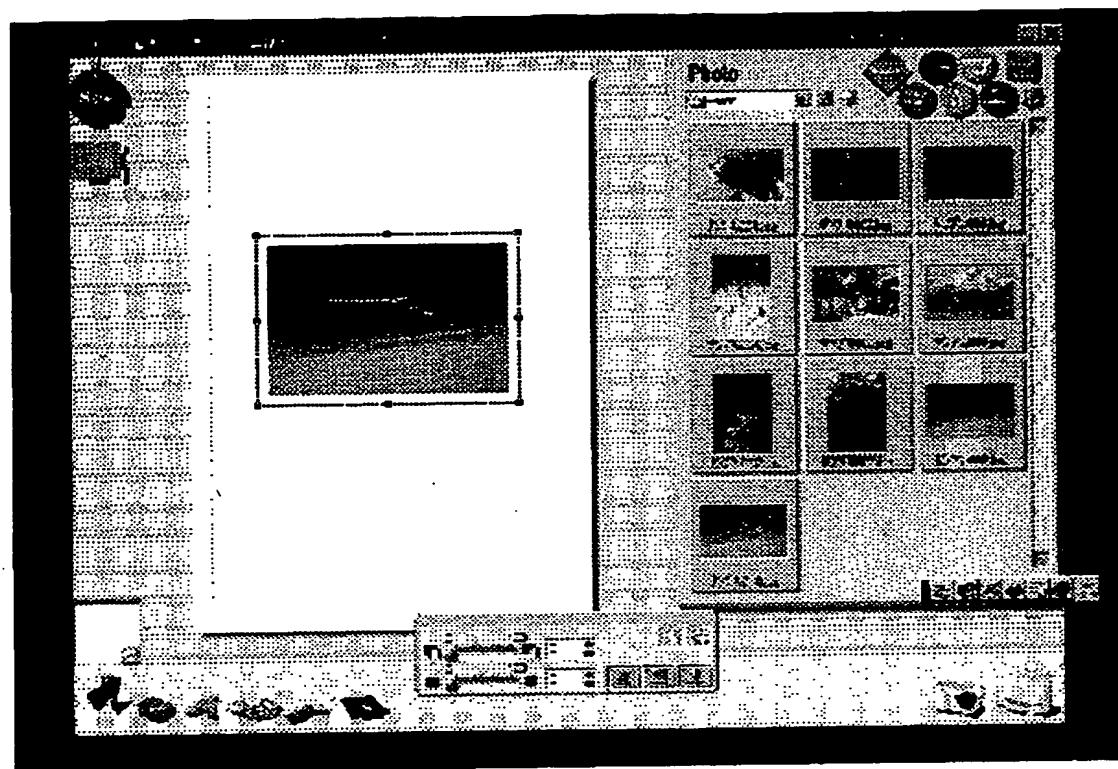
【図7】



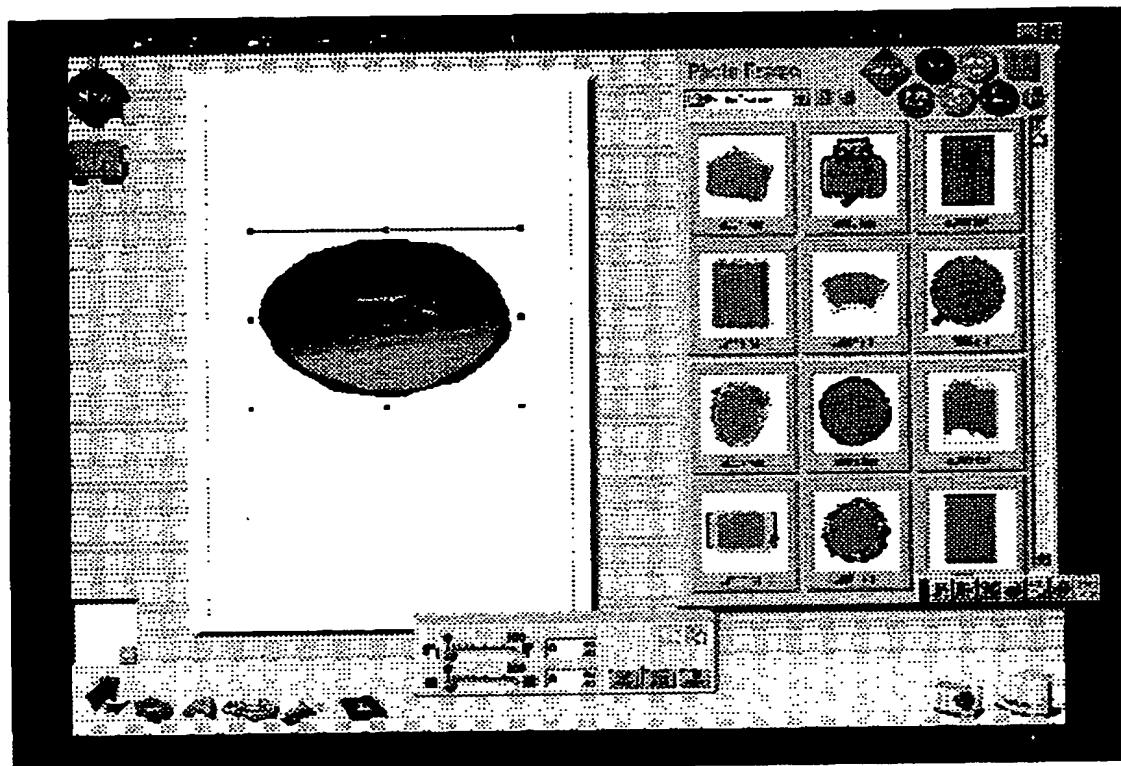
【図8】



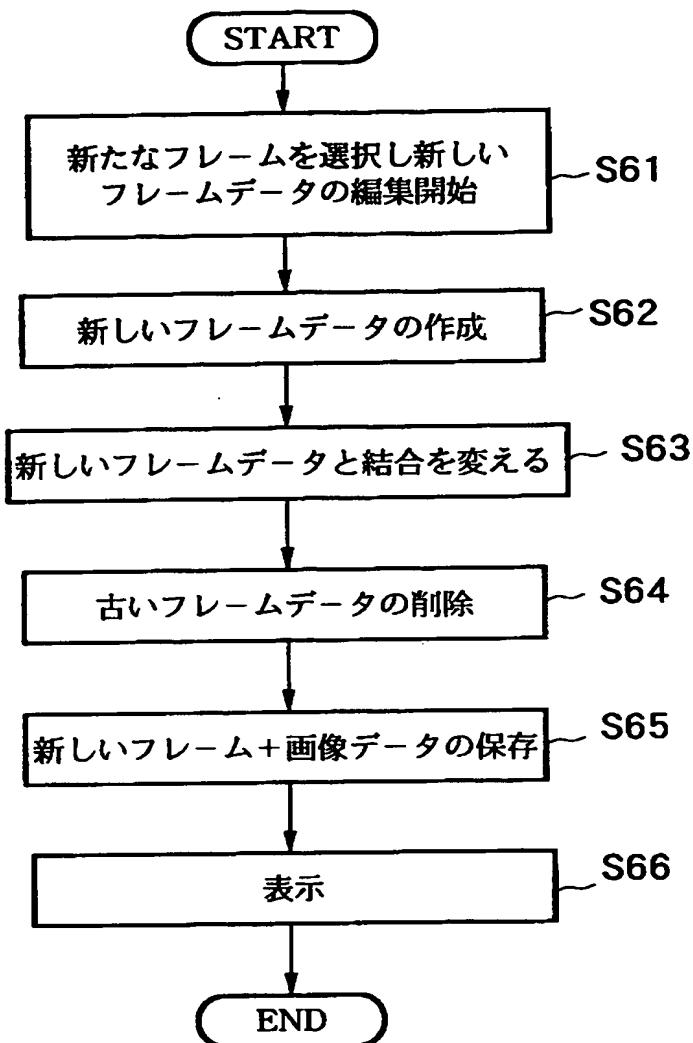
【図9】



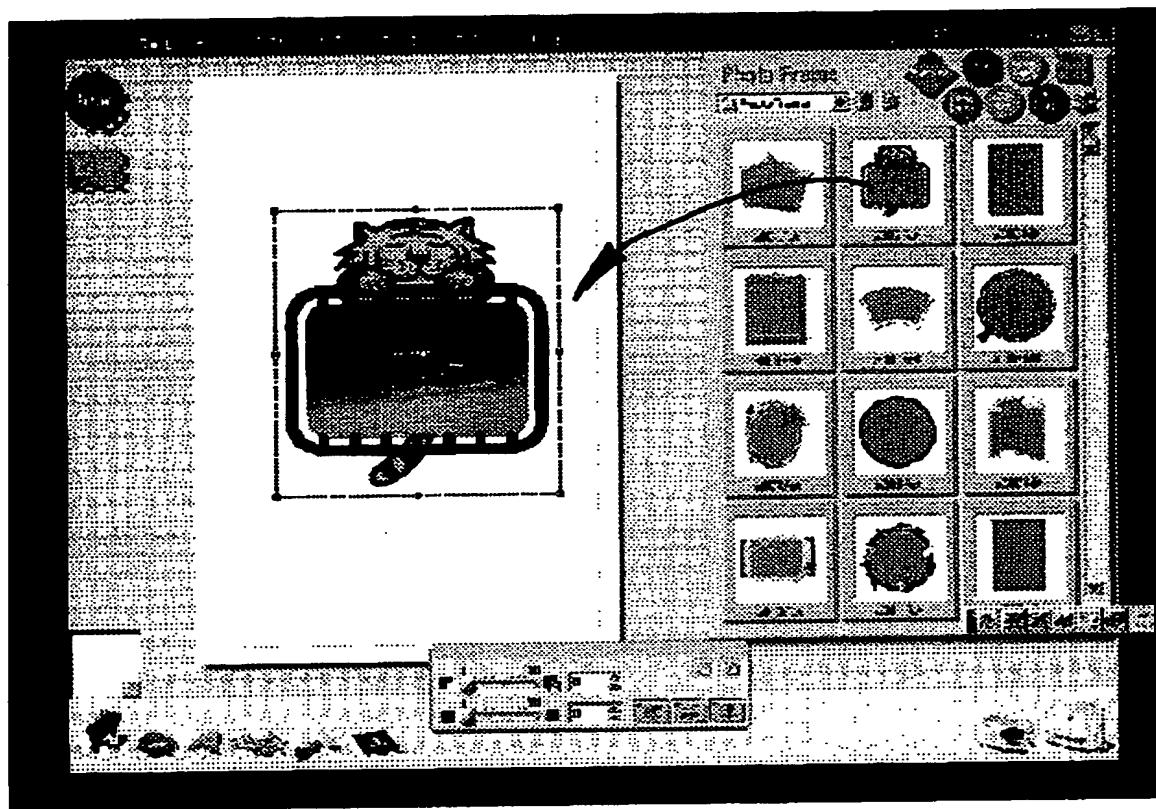
【図10】



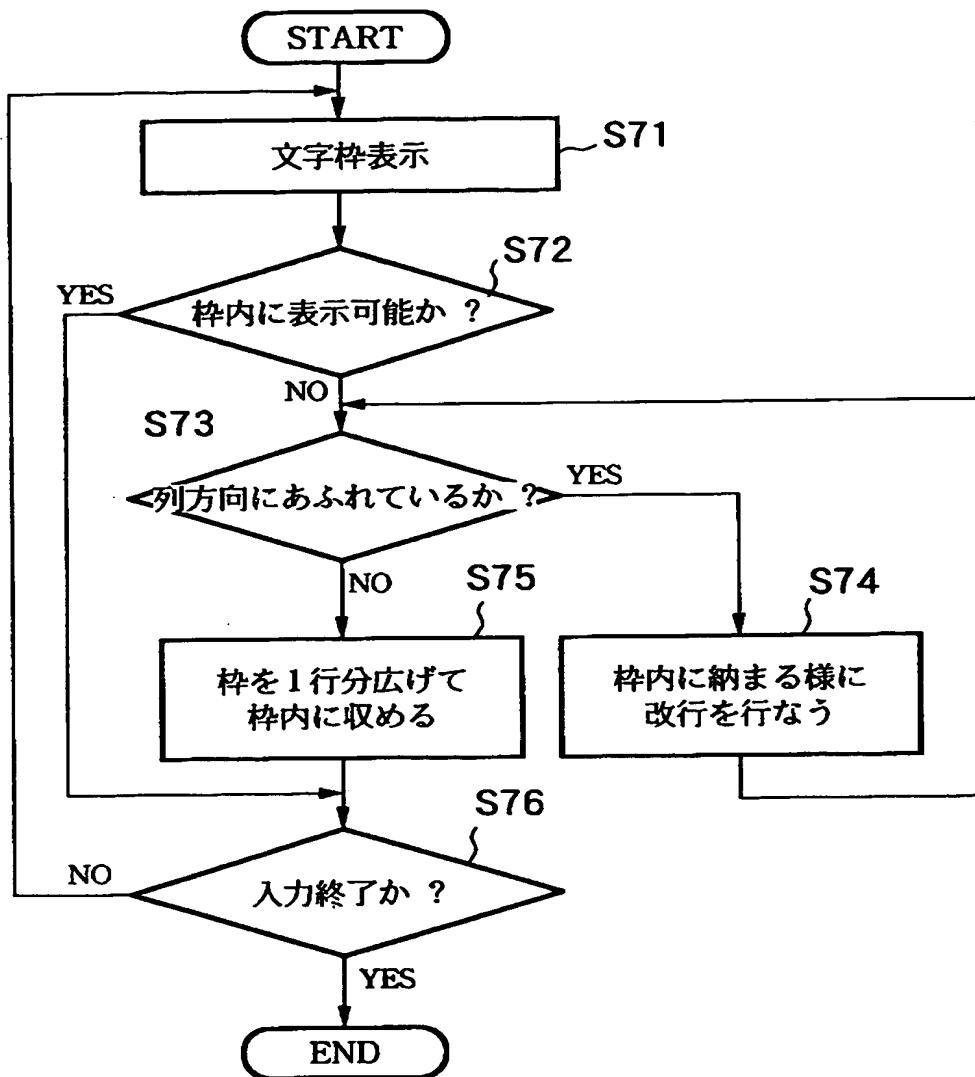
【図11】



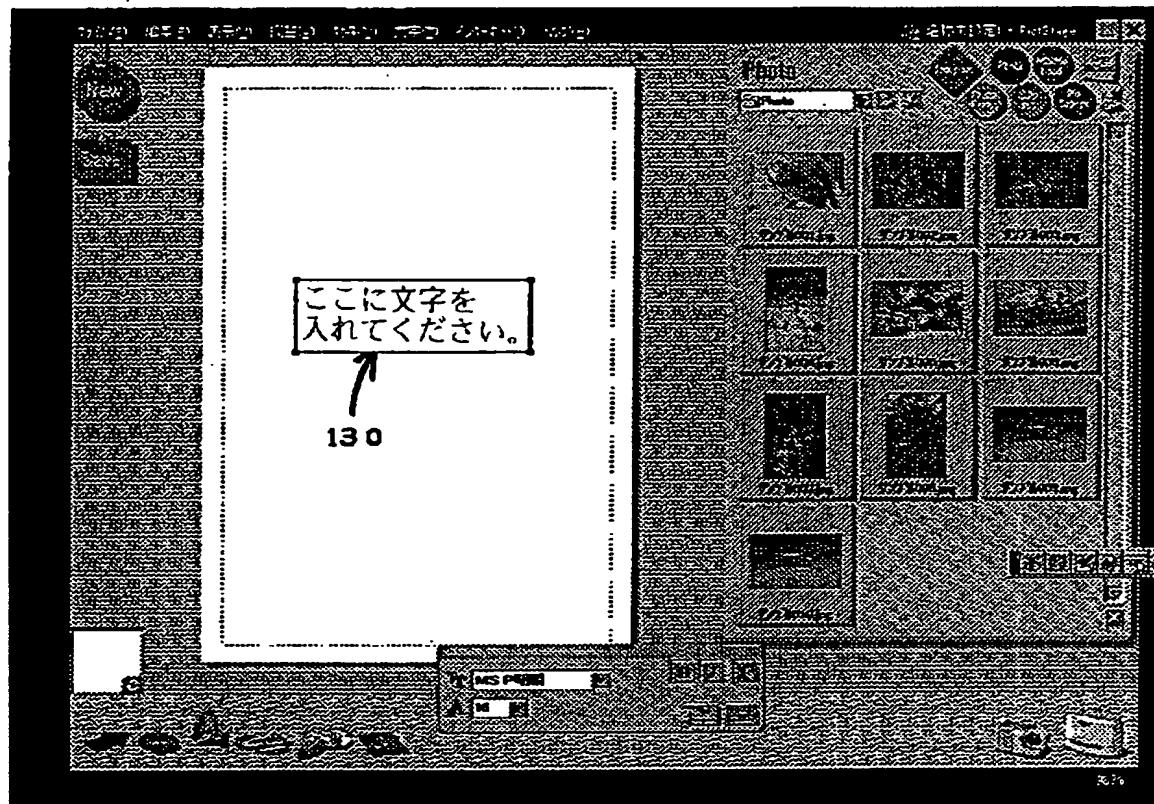
【図12】



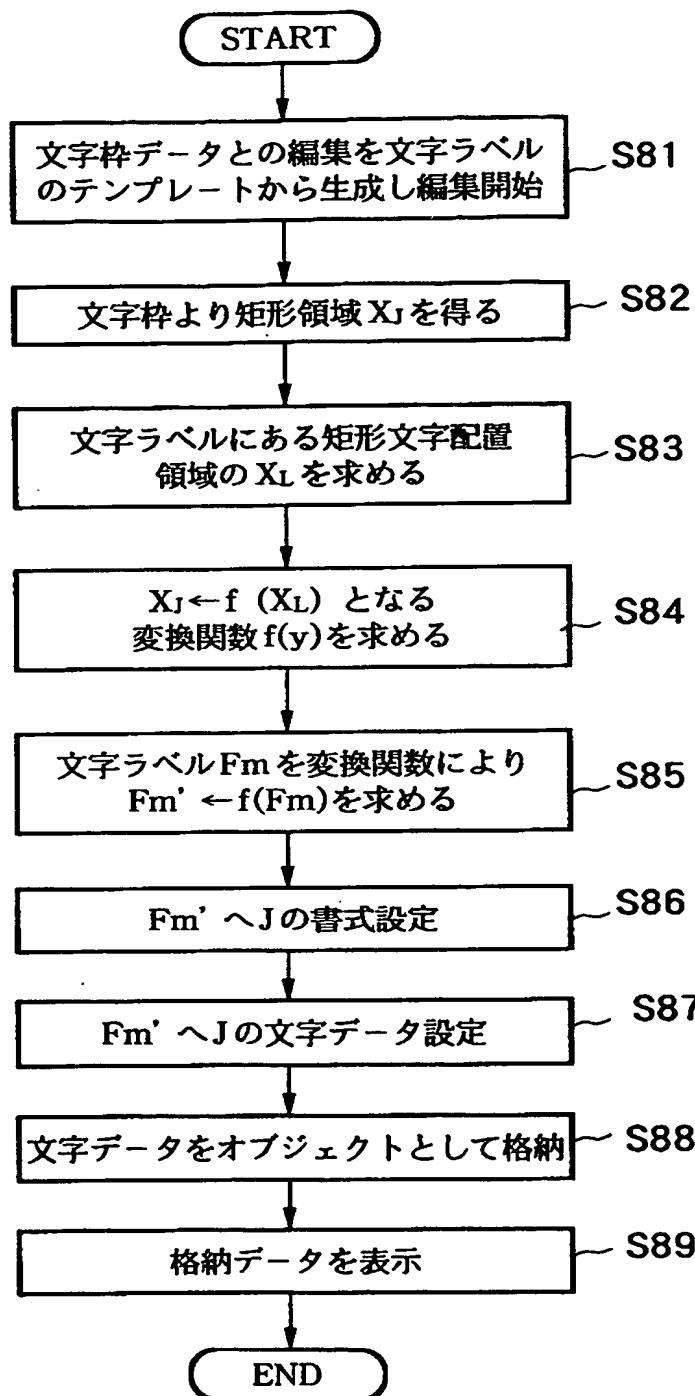
【図13】



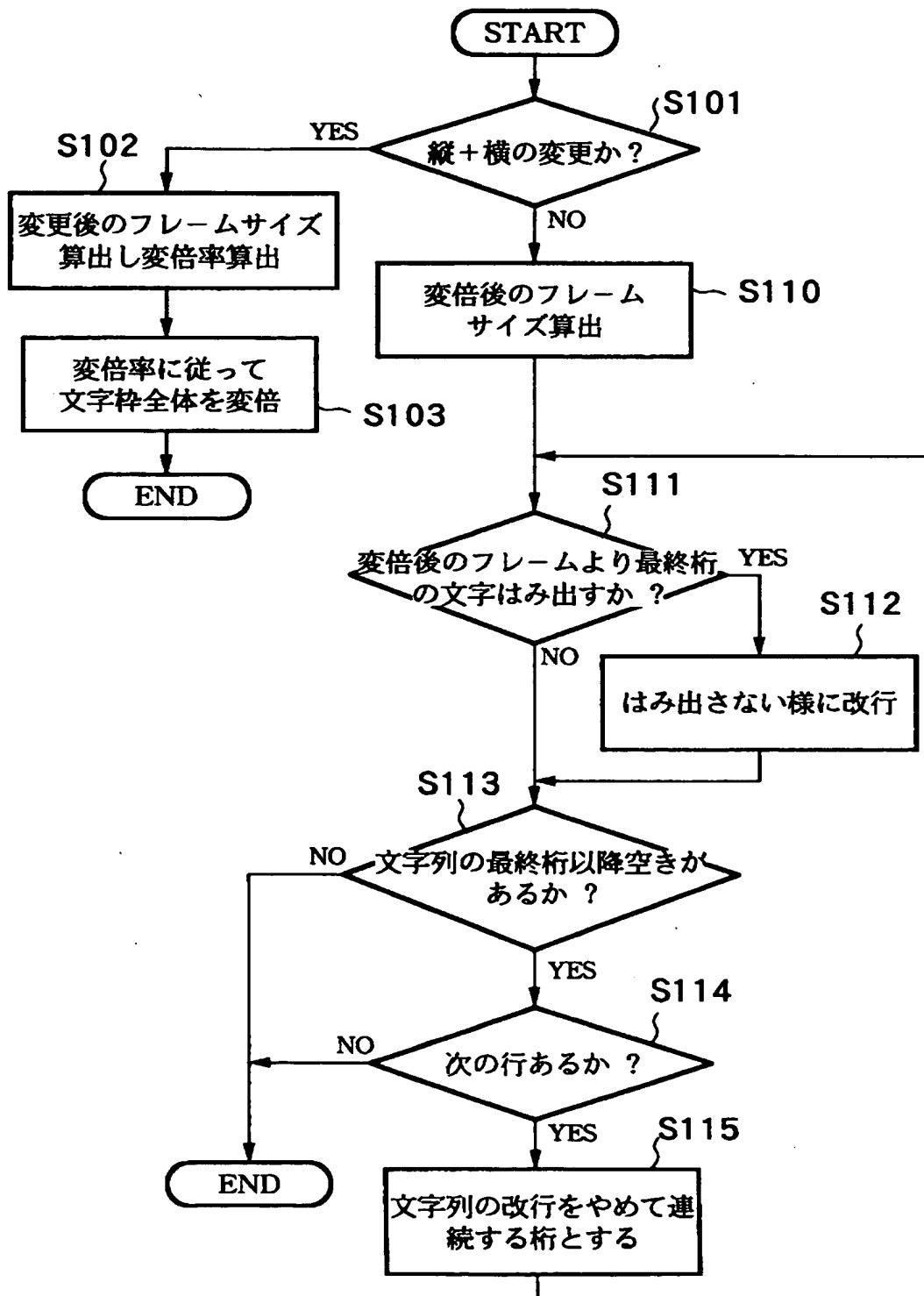
【図14】



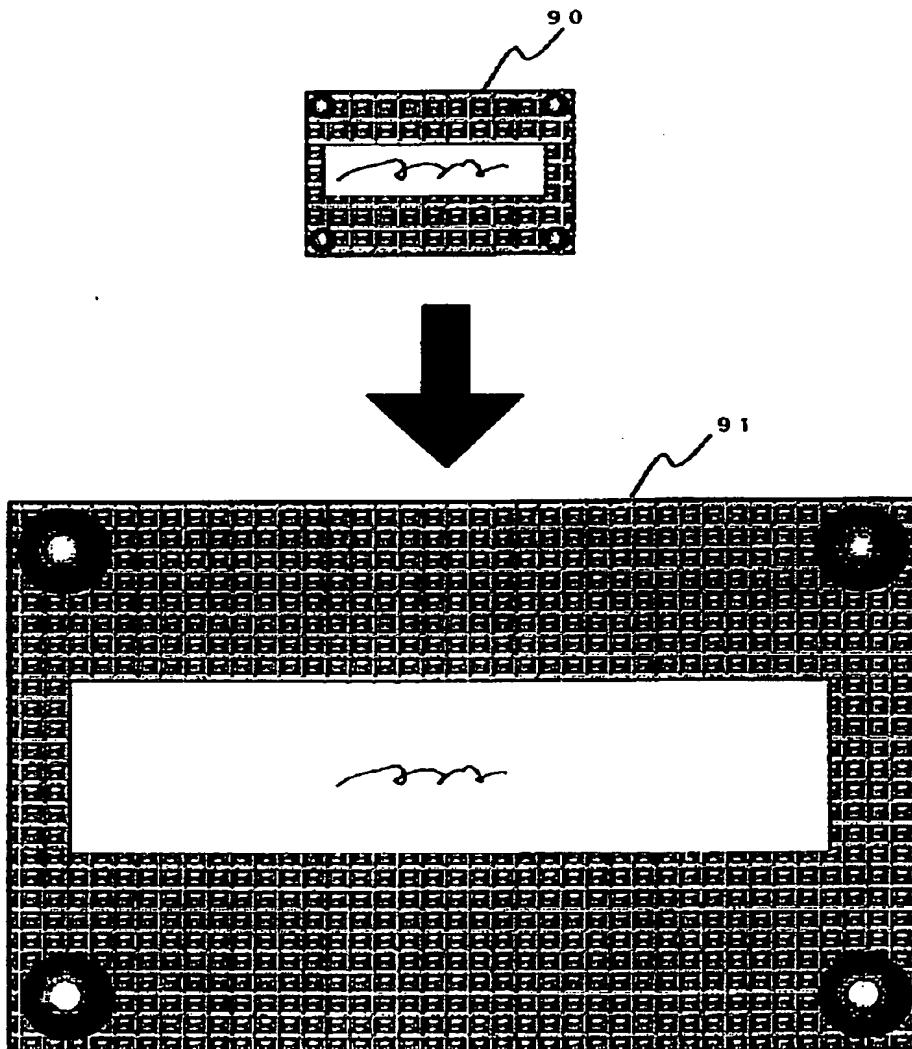
【図15】



【図16】



【図17】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 枠サイズを変更した場合でも、枠やグループ化図形に対して位置付けた意図に沿った、違和感の無い描画処理を可能とする。

【解決手段】 第1の大きさでの出力画像及び前記第1の大きさでの出力画像の出力位置を保持するとともに、第2の大きさでの出力画像及び前記第2の大きさでの出力位置を保持する保持手段を備え、出力画像の変倍が指示された時に前記第1及び第2の大きさ間の出力画像位置の変化割合より算出された出力画像の変倍率に対応した出力画像及び描画位置を決定し、描画する。

【選択図】 図2

【書類名】 職権訂正データ
 【訂正書類】 特許願

<認定情報・付加情報>

【特許出願人】

【識別番号】 000001007
 【住所又は居所】 東京都大田区下丸子3丁目30番2号
 【氏名又は名称】 キヤノン株式会社
 【代理人】 申請人
 【識別番号】 100076428
 【住所又は居所】 東京都千代田区麹町5丁目7番地 紀尾井町T B R
 ビル507号室
 【氏名又は名称】 大塚 康徳
 【選任した代理人】
 【識別番号】 100093908
 【住所又は居所】 東京都千代田区麹町5丁目7番地 紀尾井町T B R
 ビル507号室
 【氏名又は名称】 松本 研一
 【選任した代理人】
 【識別番号】 100101306
 【住所又は居所】 東京都千代田区麹町5丁目7番地 紀尾井町T B R
 ビル507号室
 【氏名又は名称】 丸山 幸雄

出願人履歴情報

識別番号 [000001007]

1. 変更年月日 1990年 8月30日

[変更理由] 新規登録

住 所 東京都大田区下丸子3丁目30番2号

氏 名 キヤノン株式会社